

四門会

第11号



聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

巻頭言

医師を取り巻く環境	教授 肥塚 泉	2
-----------	---------	---

ご挨拶

平成15年度医局員構成	医局長 勝見 直樹	3
平成15年度医局員勤務状況		4
本院、東横、西部病院外来担当表		5

外から見たマリアンナ

突難は血管の炎症?	宮前区 木山 博夫	6
-----------	-----------	---

特別寄稿

謝罪	小野泰三郎	8
----	-------	---

学位授与論文要旨

上咽頭未分化癌組織におけるFasおよびFas-ligandの発現とアポトーシスの関係	榎並 厚人	9
人工的RINGユビキチンリガーゼによる標的タンパク質分解	小宅 大輔	10

大学院生便り

追い込まれています	中村 学	12
こんにちは	田中 泰彦	12
VIVA EB	齋藤 晋	12
私の大学院生活	島田 園子	13
VIVA VERTIGO	鈴木 一輝	13

OB通信

近況報告	みなみ耳鼻咽喉科医院 南 定	14
アスリートゴルフのお誘い	菅野耳鼻咽喉科 菅野 澄雄	15

大橋 徹教授退任記念パーティー開催さる	岡田 智幸	16
---------------------	-------	----

Cutting Edge

第二の本能の正体は小脳です	渡辺 昭司	17
---------------	-------	----

満喫しています	島田総合病院 井原 佳美	18
---------	--------------	----

新入医局員紹介

よろしくお願ひ致します	小野 智宏	19
初期臨床研修をはじめて	深沢 雅彦	19
右も左もわからないお上りさんですがよろしくお願ひします	西新橋クリニック 大草 方子	20

医局便り	赤澤 吉弘	21
------	-------	----

ありがとう

ありがとう	秦野赤十字病院 大橋 徹	22
医局生活を振り返って	横浜総合病院 赤尾 一郎	22
ありがとう	宮部耳鼻咽喉科医院 宮部 聡	23
お世話になりました	鈴木耳鼻咽喉科医院 秋山由香里	24
振り返って	藤田病院 杉浦 夏樹	24
仕事をしたい今日この頃です	山根あゆ子	25

同門会会則		26
-------	--	----

平成15年度 同門会 会員名簿		28
-----------------	--	----

第6回理事会議事録		33
-----------	--	----

編集後記	岡田 智幸	34
------	-------	----

「医師を取り巻く環境」



肥塚 泉

冷夏、暑秋、阪神タイガース、これが今年のキーワードではないでしょうか。例年のごとく今年度の巻頭言を書くに当たり、昨年度の巻頭言を読み返してみました。昨年度の夏は猛烈に暑かった上、台風が数多く発生し、これらのいくつものが九州、沖縄地域を中心に上陸したとのことから地球温暖化が確実に進みつつあるとの考察を加えています。ところが本年と言えば、8月になっても涼しい毎日が続き、9月になってからは、うだるような暑さが毎日続くという、特異な年となりました。来年の杉の花粉の飛散がどうなるのか、我々耳鼻科医にとっては非常に気になるところです。

さて、同門会員の先生方は、フジテレビ系列で毎週水曜日、晩の9時から放映されている「トリビアの泉」という番組をご存知のことと思います。今回は、この巻頭言を借りて、現在、我々医師を取り巻く環境について、「トリビアの泉」風にご紹介させていただきます。

1. 医者の数は過剰、医者余り傾向が始まっている

一昔前、医師は特別な職業である、というイメージがありました。ここ最近の医師数の増え方をみると、そうではなくなっていると言わざるを得ません。平成10年の調査によると、医療に従事する医師の数は23万人を超え、この数字は10年前に比べて26%も増加しているそうです。医師の職場はそれだけ競争が激しくなっているわけで

す。このような背景から、「医者余り」という言葉が頻繁に使われるようになりました。この傾向は平成22年頃からさらに強まると予測されており、我々の業界にも近い将来、厳しい市場原理が導入されるものと予想されます。

2. 医師の高齢化が加速中

医師の年齢分布は30～50歳に大きなピークがあります。これは一般の会社とほぼ同様の傾向ですが、特徴的なのは50歳以上、特に70歳以上の現役医師が11.9%もいるということです。そのため、平均年齢が47.2歳と高くなっています。今後、医学部の定員を絞ることが決定されており、今後「医師の高齢化」はさらに、加速すると思われます。

3. 女医さんが3分の1

最近まで入試委員として、本学の入学試験に関与していました。入学試験当日に、会場周辺を見回すと、本当に女の子がふえたなあ、というのが実感でした。女性医師の割合は平成10年で28.4%、現在は30%を超えているとのこと、今後も男女比は縮まっていくと予想されています。耳鼻咽喉科領域では滲出性中耳炎や先天性難聴など、主に小児が対象となる疾患を数多く扱っており、これらの疾患の診断・治療に、女性医師が積極的に参加することは大変喜ばしいことと思われます。

以上、我々医師が今後直面するであろう、様々な問題点を「トリビアの泉」風に紹介させていただきました。このような現状を踏まえ、先生方のさらなるご指導ならびにご鞭撻を願ひし、巻頭言とさせていただきます。

(参考：健康@nifty)

平成15年度医局員構成

医局長 勝見 直樹

医局長業務を担当して2年目を迎えました。包括化医療や研修医制度の変更、電子カルテへ向けてのシステム改革、学生教育に対しての現場医師の協力の増加と色々と勉強させていただいております。

平成15年度の医局員構成についてですが、合計65名で内訳は教授1名、名誉教授1名、客員教授2名、講師6名、助手19名、病院助手7名、大学院生6名、研修医2名、診療技術員3名、秘書2

名、研究員7名、研究生1名、非常勤講師9名、登録医1名です。

本院、分院、関連病院を合せた学年構成は13年目以上11名、11年目から12年目0名、9年目から10年目7名、7年目から8年目6名、5年目から6年目6名、3年目から4年目11名、1年目から2年目2名となっています。

来年度から研修医制度が変更となる関係上、最後の研修医2名を迎えています。



耳鼻咽喉科外来担当表 平成 15 年 10 月現在

		月	火	水	木	金	土
		初診	肥塚 勝見	岡田	渡辺	吉野	堤
午	再来	黒田 鈴木	信清 梅原 (24) 島田 (135)	関 黒田	梅原 島田	赤澤 鈴木 (24) 梅原 (135)	赤澤 島田
	前	中耳 顔面神経	頭頸部 腫瘍	口腔咽頭	咽頭 音声	めまい	味覚
肥塚 岡田 葵澤		堤 渡辺 関 鈴木 (毅)	吉野 勝見 内田	信清 赤澤 (245) (岩武13)	肥塚 岡田 宮本 服部 (24) 春日井 (24) 鈴木 (135)	大草 (245)	
病棟当番		小野	小野	小野	深澤	深澤	深澤

午 後				鼻・副鼻腔 アレルギー 黒田 勝見 吉野 田中 (健) 宮部 (24)		聴覚 梅原 越智 釧持 木下 (13)	
	めまい検査		小野		島田		
	救急当番	島田、深澤	信清、深澤	赤澤、小野	鈴木	鈴木、深澤	

Free AM	梅原 A	肥塚 鈴木 A	赤澤 C	肥塚 勝見 B	吉野 B 黒田 B 信清 C 梅原 A	肥塚 吉野 B 岡田 A 勝見 B 堤 C
PM	黒田 B (鈴木 A) (梅原 A) (岡田 A) (勝見 B)	肥塚 (岡田 A) (堤 C) (渡辺 C)	赤澤 C (渡辺 C) (関 C)	肥塚 鈴木 A 勝見 B 黒田 B (吉野 B)	信清 C 吉野 B 赤澤 C (渡辺 C) (岡田 A) (肥塚) (堤 C)	関 C (2、5) 信清 C (4) 赤澤 C (4) 黒田 B 梅原 A 鈴木 (4)

Ope	渡辺 堤 信清 関 赤澤	吉野 勝見 黒田 島田	肥塚 岡田 梅原 鈴木	堤 渡辺 信清 関 赤澤
-----	--------------------------	----------------------	----------------------	--------------------------

外勤 AM	赤澤 C 吉野 B		信清 C 堤 C (島田難治研)	岡田 A 黒田 B	勝見 B 島田 B 渡辺 C 関 C	渡辺 C
PM	肥塚 吉野 B 鈴木 A	赤澤 C 鈴木 A 梅原 A	信清 C 堤 C (島田難治研)	岡田 A 梅原 A	島田 B 勝見 B 黒田 B 関 C	

東横病院

耳鼻咽喉科						
受付時間	月	火	水	木	金	土
8:30 ～ 11:30	●越智 小宅	沢田 新谷	小宅 高津	●越智 新谷	新谷 高津	医局員
13:30 ～ 15:30	聴覚 ●越智	手術	手術	手術	手術	
	鼻・副鼻腔 小宅				高津	

◎=院長、○=部長、●=副部長

西部病院

耳鼻咽喉科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	初診	初診	初診	初診	初診	●佐藤
	◇弴持	●佐藤	◆宮本	◇弴持	●佐藤	◇弴持
	再診	再診	再診	再診	再診	◆宮本
	●佐藤 杉田	◆宮本 杉田	芋川	◆宮本 杉田(2、4) 鳥越(1、3)	◇弴持 杉田	
午 後	中央手術	中央手術	中央手術	検査	検査	

○=部長、●=副部長、◇=主任医長、◆=医長、無印=医員

() 内の数字は何週目かを示す

関連病院

勤務状況は同門会名簿を参照願います。

外から見たマリアンナ

突難は血管の炎症？

宮前区 木山 博夫

私が44年に入局した当時、突難はそれほど多くはなかったように記憶している。それから30数年を経て突難は低音障害型の感音難聴を含めて、外来においても普通に見られる病気になっている。しかしその病因となると今でも判らないのである。

薬物治療においてはステロイド投与が一般的であり、私の外来においても診断が確定すると、まず3日間はプレドニン45mg、メチコパール3錠、ATP 3錠、ムコスタ3錠を投与し、改善のない場合にはリンデロン30mgに変更する。それでも反応しない場合には紹介しているのだが、大多数はステロイド投与で対処できる。そもそもステロイドは強力な抗炎症薬だから、突難の病因は炎症じゃないの？と考えるのは極自然な考え方だろうといえる。ウイルス説も有力な病因説ではあるが、何か信じがたいところがある（94年に岩手医大の突難の疫学ではウイルスの関与は否定的であった）。

縄文時代から現代まで人類の歴史を考えると、私の生まれ育った50数年前は母が川で洗濯をしていたように、古代からの全く変わらぬ風景であったが、今では洗濯物が乾燥して出てくるというような時代になった。しかしこのような劇的な変化はいろいろなところに歪みをもたらしている。趣味として読んでいる聖書の中に描かれたサバクの旅人の「楽園」に、現代人は精神的な事はおいて、その世界を享受しているように思える。しかしすべての物事は表裏一体に動いてい

る。旧約聖書のレビ記3章17節に神はこう告げている。「あなた方は脂肪も血もいっさい食べてはならない」さらに7章23節には、「あなた方は雄牛や若い雄羊やヤギの脂肪をいっさい食べてはならない」とある。神は2節に渡って人類に警告しているのである。その脂を食べるなどという警告を人類が破ることによって高脂血症を引き起こし、さらに脳・心臓の動脈硬化症をきたし、それが引き金として大勢の人々が死んでいる。

この動脈硬化が血管で起きる炎症性の疾患であるということは次第に定説となりつつある。

炎症の発症は血管内皮細胞が障害を受けることにより始まるのであるが、この障害は、1) 一酸化窒素〔NO〕やプロスタグランジン〔PG〕I₂の減少。2) PGH₂やエンドセリンの増加。3) サイトカインや増殖因子、細胞外マトリックスを介した血管内膜肥厚。4) 接着因子の発現亢進……などによりさらに誘発される。

立木氏の突難にたいする成因として血管条が深く関与していることを示唆しているが、私もこのあたりの炎症こそが引き金になっているように思える。

そこで私たちの外来検査において、その炎症所見を見出せないものかと私なりのチャレンジを試みたくなって、平成14年12月より15年の6月まで突難と低音障害型感音難聴例21例について検討してみた。年齢は16から65才で、男9女12例、検査項目の「眼底検査」は宮前区医師会会員の大関医師にお願いした。血液検査は高脂血症には

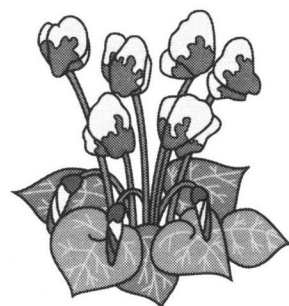
「Tch」「TG」「血圧測定」、炎症には「CRP」「血中白血球」「血液像」、血液の粘度指標として「貧血の有無」、「血小板数」、アレルギー体質として「血中好酸球」、食後の高血糖はインシュリンの分泌を増加させ、それが血管内皮細胞を障害するので「食後血糖値」の以上の検査を施行した。

結果は、薬物療法による改善例は11例・不変は9例・悪化は1例であった。残念ながら臨床検査ではなんら関連性を見出すことはできなかった。ところが眼底検査においては、動脈硬化症と診断のついた8例のうち不変6例、悪化1例、改善1例であった。それに対して正常の10例が改善、3例が不変であったが、そのうちの不変1例は高脂血症であることより、前述の不変例に含まれるようになるであろう。動脈硬化症と診断された不変例6例はすべて突難例であることより、突難の予後判定にはこの眼底検査こそが有力な検査となりうるということを示唆している。

そこで次のステップとして、大関医師とのカンファレンスにての結論ではあるが、眼底の写真をコンピュータにとりこみ、それを拡大してA/V比を計測することによって、さらに具体的に判定できるのではないか、また蝸牛にいたる血流は脳底動脈—前下小脳動脈—迷路動脈—固有蝸牛動脈および前庭蝸牛動脈を経て放射細動脈から血管条に達するが、平滑筋が認められる細動脈は前下小脳動脈であることより、この動脈と同じものを眼底の動脈の中に見つけることによって、より具体的な動脈硬化の変化とストレスからくるスパズムを捕らえられるかも知れないと考えられる（糖尿病と眼底の関連性についての研究はあるが、もちろん突難との関連に対する研究はない）。

さらなる展開として研究レベルの領域にはいると思われるが、炎症に対してはCRPを計測したが、さらなる炎症の所見を得るためには高感度CRPの計測が必要であろう。内膜筋細胞の増殖を刺激するIL-1やVCAM-1、ヨハネスグーテンベルク大学内科のブランケンベルグ博士らのIL-18が炎症を介してアテローム性プラークはその進行性とその弱さに繋がるとした報告をしている。またエンドセリンの増加は血管を強く収縮させ内皮細

胞を傷害し、筋細胞を増殖させる。プロスタグランジンI₂ [PGI₂] は内皮細胞において分泌されるが、その産生低下が血小板の凝集を引き起こす。これらの研究レベルの検索によって、血管条における炎症の解明が期待できるのかも知れない。もしこれらのことに興味があれば貴科において検討していただければ大変うれしいことでもあります。



謝罪

小野 泰三郎

腕時計を見ながら、私は外来へ急いでいた。

9時に予約した患者さんがいる。数日前に検査を済ませ、今日の外来の第一番に来て下さいと約束してあった。そのため白衣に着がえて部屋を出ようとしたときには、9時にはまだ15分もの間があった。だがそのときかかってきた電話がその予定を狂わせた。遅くなったと思いながら外来に着いたときには、時計は9時を15分ほど過ぎていた。

呼吸はまだ気忙しかったが外来の受付にサインを送り、2、3名の患者さん呼び入れてもらった。「〇〇さん、どうぞ」と、最初の患者さんに声をかけた。呼ばれて近づいて来たのは、その日の最初の人だった。几帳面な感じの30歳代の男性である。私が初診で診て検査の指示をした。憶えのある顔である。検査データとカルテをとり揃えた机をはさんで、前に座った患者さんは、私がないとも言わないうちに話しかけてきた。

「先生はずいぶん、時間に正確なかたですね」という予期しない言葉に、思わず私は顔を上げた。そのまなざしは軽蔑を含み、口辺にはまだなにか言い足りないような雰囲気漂わせていた。外来が時間通りに開始されなかったことに対する憤りがあらわであった。だが、私が部屋を出る寸前までは9時少し前には診療が開始される予定で、それだけの時間の余裕があった。ところがその朝、ちょっとしたアクシデントがあったのである。部屋を出ようとしたときの電話は病棟からのもので、患者さんの急変と応援の依頼である。放ってはおけなかった。外来と病棟は逆方向である。急いで職員専用のエレベーターで7階に上り、処置を済ませて受持ち医にその後の指示を出し、ひとしきりの段取りをつけた。そのときには時計は9時を10分近く過ぎていた。病棟の電話は混んでいた。人の少ない廊下は走り、階段を2階まで走り降りて各科の外来が並んで混み合う廊下を人を避けながら私の外来に駆け込んだのであった。

だがそれは、こちらの事情である。外来の患者さんが知るはずがなかった。公務員であるその人は、時間には極めて几帳面な人らしい。その人に何日の何時と指示したのはこちらである。その時刻を守ってきた患者さんに、申し開きはできない。数秒の沈黙のあと、呼吸と動悸の静まるのを待って、静かに言った。「どうも失礼しました。遅れてすみませんでした」その言葉とともに、軽く頭を下げていた。

この返事を聞き、頭を下げたのを見た患者さんの顔は、わずかの間に明るさをとり戻していた。

機嫌がなおった顔を見とどけた私は仕事にとりかかった。検査の結果を話し、前回聴いておいた訴えと照らし合わせて診断し、その後の治療についても説明を加えた。患者さんは納得し、機嫌よく立ち去ってくれた。だがその日の午前中は、ごく軽い不快感がないとは言えなかった。少しでも早く外来へ、という努力が徒労に帰したことが残念であった。

患者さんの皮肉に対して正直に理由を述べたいとも思ったが、遅れた理由がなんであろうとそのことはこちらの事情で、患者さんにとっては無関係なアクシデントである。それに私自身、言いわけめいた言葉を口にするに、こだわりがあった。第三者が何と言おうと遅れたのはこちらである。非は医者側にあつて患者側にはない。ひと言すみませんと頭を下げるのだと2、3秒の間に考えてのことだった。

謝罪の裏には、往々にしてこのような事情があるものだ。それでも謝罪する側にとっては、それで事が納まれば……と考えているに違いない。謝罪はあまりたびたび要求するものでもなければ、するものでもない。それが過ぎれば、やがては理を以て非に落ちる。すなわち理屈の上では勝ちながら実際は負けたと同じ結果となる。このあと数回、この患者さんには会っていたが、この話は二度と出なかった。

主論文要旨

氏名(生年月日): 榎並 厚人(昭和44年2月4日)
 本 籍 : 東京都
 学位の種類 : 博士(医学)
 学位授与番号 : 甲 第721号
 学位授与の日付: 平成15年3月25日
 学位授与の要件: 学位規則第4条第1項該当
 学位論文題目 : 上咽頭未分化癌組織におけるFasおよび
 Fas-ligandの発現とアポトーシスの関係
 論文審査委員 : (主査) 教授 西岡 久壽樹
 (副査) 教授 田所 衛
 教授 川合 真一

論文内容の要旨

緒言

アポトーシスは遺伝子による制御を受けるプログラムされた細胞死の表現型である。Fasは細胞膜蛋白であり、Fas-ligand (FasL) や抗Fas抗体との結合によってアポトーシス誘導シグナルが伝わる。悪性腫瘍細胞ではFasの発現低下及び欠損やFasLの発現誘導などの変化によってアポトーシス抵抗性を獲得し、生体免疫機構の監視から逃れる可能性が報告されている。本研究の目的は、上咽頭癌組織におけるFas/FasLの発現及びEpstein-Barr virus (EBV) 感染とアポトーシスの状態を解析することであった。

方法・対象

上咽頭癌材料として上咽頭未分化癌(Undifferentiated nasopharyngeal carcinoma=UNPC)と診断された20症例の生検組織を使用した。検出方法は、Fas発現は抗Fasモノクローナル抗体を用いてCatalyzed signal amplification法にて施行した。FasL発現は、抗FasLモノクローナル抗体を用いてLabeled streptavidin-biotin immunoperoxidase (LSAB) 法にて施行した。アポトーシス細胞は抗Single stranded DNA (ssDNA) ウサギポリクローナル抗体を用いLSAB法で検出した。アポトーシスの評価は検索組織切片上における1000個のUNPC細胞中に存在するssDNA陽性細胞数を計測しApoptotic index (AI) とした。EBV-encoded small RNA (EBER) の検出はIn situ hybridization法にて施行した。EBV感染の有無はこのEBERの検出により判定した。

結果

(1) 正常上咽頭組織におけるFas発現は、粘膜上皮

及び間質に認められた。FasL発現は検出されず、アポトーシス細胞も検出されなかった。

- (2) UNPC20症例のFas発現は17症例(85%)に、FasL発現は15症例(75%)に、EBERは16症例(80%)に検出された。
- (3) Fas発現は細胞膜に明確に検出されたが、間質及び腫瘍浸潤リンパ球には認めなかった。Fas発現はEBER陽性であった16症例全てに検出された。
- (4) FasL発現は細胞質に観察され、間質及び腫瘍浸潤リンパ球にも認めた。FasL発現はEBER陽性16症例中12例(75%)に、EBER陰性4症例中3例(75%)に検出された。
- (5) 20 UNPC症例のAIを、FasとFasLが共にUNPC細胞に発現していた症例群(Fas+/FasL+症例群13例、65%)とその他の症例群(FasかFasLのどちらかのみ発現=6例、どちらも陰性=1例)で比較解析したところ、Fas+/FasL+症例群のAIは他の症例群よりも有意に低かった。

考察

Sbin-Lammaliらは14症例の上咽頭癌組織を調べ、EBV感染が証明された12例のUNPC症例は全例Fas陽性で、EBV感染を認めなかった2例の症例はFas陰性であったと報告している。今回の我々のUNPC症例でもEBER陽性は全例Fas陽性であり、また、Fas発現は正常上咽頭組織においても検出された。これらの結果は、UNPC細胞ではEBV感染はUNPC細胞の発生・進展過程でFas発現の質的変化を誘導せず、Fas発現を維持するための重要な因子である可能性を示唆している。

今回の結果では、FasとFasLが共発現しているにもかかわらず、この症例群のアポトーシス細胞の数は他の症例群よりも有意に低かった。これらは、生体内におけるFas+/FasL+のUNPC細胞はFas発現欠損以外の機構によってFasを介するアポトーシスに抵抗性を獲得している可能性を示唆する。培養細胞においてEBV陽性UNPC細胞株はFasを介するアポトーシスに高い感受性を示すことが報告されている。しかし生体組織では、UNPC細胞周囲の微小環境において産生される因子によってUNPC細胞がFasを介するアポトーシスから保護されているのではないだろうか。因子としてはUNPC細胞のCD40/CD154の発現、Bcl-2ファミリーの発現が考えられる。これらを詳細に検討することが今後の課題である。

結論

20 UNPC症例中、Fas発現は17症例、FasL発現は15症

例、EBERは16症例に検出された。FasとFasLが共発現していた症例群 (Fas+/FasL+) のアポトーシス細胞の数は他の症例群よりも有意に少なかった。この結果は、生体内におけるFas+/FasL+のUNPC細胞がFas発現欠損以外の機構によってFasを介するアポトーシスに抵抗性を獲得している可能性を示唆する。

論文審査結果の要旨

[論文の要旨・価値]

日本人には比較的頻度の少ないEBウイルス関連上咽頭癌 (UNPC) の病理的学検索に基づき、アポトーシスのシグナルであるFas/FasL分子が発現しているにも関わらず、アポトーシスに陥っている細胞が減少していた。この事実はEBウイルスがその発現に関与しているUNPCにおいて新しいアポトーシスの障害機構の存在を示唆した価値のある論文と思われる。

[審査概要]

論文対象となった日本耳鼻咽喉科学会会報105:1087~1092、2002 (平成14年) の論文審査では特に問題なく、また、12月17日に実施した口頭発表及びその後の数多くの質疑にも的確に回答した。特に問題になった点は少なく、今後の研究課題、特にUNPCの細胞株の樹立に基づいて、Fas/FasL系のシグナル阻害分子のシグナル系などを制御する事によって大きな研究プロジェクトとして発展する可能性が討論され、発表者の榎並君もその重要性は十分に認識したと考えられる。

[主論文公表誌] 日本耳鼻咽喉科学会会報105

主論文要旨

氏名(生年月日): 小宅 大輔 (昭和48年2月20日)

本 籍 : 神奈川県

学位の種類 : 博士 (医学)

学位授与番号 : 甲 第724号

学位授与の日付: 平成15年3月25日

学位授与の要件: 学位規則第4条第1項該当

学位論文題目 : Targeted substrate degradation by an engineered double RING ubiquitin Ligase. (人工的 RINGユビキチンリガーゼによる標的タンパク質分解)

論文審査委員 : (主査) 教授 窪田 俊
(副査) 教授 磯橋 文秀
教授 鈴木 登

論文内容の要旨

緒言

細胞内の構造および環境の変化に応じて分解される多くの蛋白質は、ユビキチン依存性制御を受けている。ユビキチンは、ユビキチン活性化酵素 (E1) により活性化されユビキチン結合酵素 (E2)、ユビキチンリガーゼ (E3) を介して標的蛋白質をユビキチン化する。さらに26Sプロテアソームに認識され蛋白質分解がおこる。ユビキチンリガーゼは、基質特異性を決定するサブユニットが含まれているため標的蛋白質分解の鍵を握る。癌遺伝子産物の一つであるBRCA1とBARD1 (BRCA1-associated RING domain protein) のdouble RING ユビキチンリガーゼを作成し標的蛋白質認識部位を組み込み、それらが複合体を作成し標的蛋白質を分解するかどうかを検討した。

方法

図1のごとくBRCA1とBARD1のdouble RING ユビキチンリガーゼとして、myc-RING2-a、myc-RING2-b、myc-RING2-c、myc-RING2-Pcを発現ベクターとして作成し (標的蛋白質認識部位としてはサイクリン依存性キナーゼインヒビター (CDK1) と結合するPCNAを用いた)、293T細胞に導入し、一過性発現させ、抗myc抗体によって免疫沈降し、その免疫沈降複合のユビキチンリガーゼ活性を測定した。また発現したmyc-RING2-Pcに関して、CDK1の一つであるp57蛋白質 (p57) との結合能を検討した。さらに、myc-RING2-Pcを293T細胞においてp57と共に発現させ、対照と比較してp57発現への影響 (量依存性か? その分解はプロテオソーム依存性か? =プロテオソーム阻害剤であ

るLLnLおよびMG132の使用)を検討した。最後にU2OS細胞を使用してColony formation assayを行った(p57の存在にてColonyが消失するか否か? myc-RING2-Pcとp57が両方発現している場合はどうか?)。

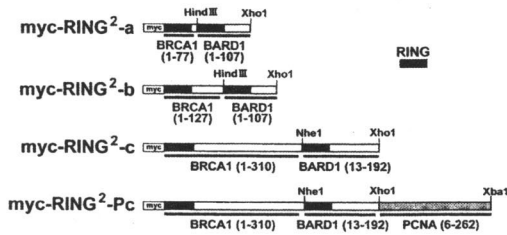


図1

結果

- (1) myc-RING2-cを293T細胞に一過性発現させ、抗myc抗体によって沈降した免疫沈降複合体は強いユビキチンリガーゼ活性を示したが、myc-RING2-a、myc-RING2-bは、ユビキチンリガーゼ活性を示さなかった。
- (2) p57と発現したmyc-RING2-Pcとの結合が示された。
- (3) 発現したmyc-RING2-Pcは細胞内で構造上多様性があることが示された。
- (4) myc-RING2-Pcを293T細胞においてp57と共に発現させ、対照比較したところ、対照はp57発現に影響を与えないのに対してmyc-RING2-Pcの発現はp57を消失させた。さらに、このことは量依存性、プロテオソーム依存性であることがわかった。
- (5) 同様の実験(4)にてp57蛋白質発現には影響はなかった。
- (6) Colony formation assayでは、p57の存在にてコロニーが消失し、myc-RING2-Pcとp57が両方存在するとコロニーの消失が観察できなかった。

考察

これまでの研究で、ROC1を使用したsingle RING finger人工的ユビキチンリガーゼは標的蛋白質の分解が起こらないことが報告されている。そこで我々は、ユビキチン化の能力を高めるためBRCA1とBARD1のRING fingerを応用してdouble RING fingerを作成した。double RING finger人工的ユビキチンリガーゼは、プロテオソーム依存性に標的蛋白質を分解することがわかった。

本研究では、標的蛋白質認識部位としてPCNAを用いたが、PCNAは他のCDKIであるp21蛋白質(p21)とも結合することが知られている、しかし、今回の実験

系を用いた場合、p21の分解は起こらないことが既にわかっており、その理由の一つとして、p21の発現効率はp57の発現効率に比較した際に高い可能性が考察される。また、p21が核内に主として発現するのに対しp57とmyc-RING2-Pcは核内および細胞質内両方に発現することも関与しているのかもしれない。またPCNAは、他の細胞増殖因子と相互作用があるが、p57とmyc-RING2-Pcが同時に発現するとp57による細胞増殖効果は消失した。このことから、myc-RING2-Pcと細胞増殖因子は細胞内で異なった場所に存在していると考察される。生体にとって有害なDNA変異は、蛋白質三次構造の変化をもたらす。この変化は人工的ユビキチンリガーゼにより容易に発見することが可能であり、今後の癌遺伝子治療に応用できる可能性があると思われる。

論文審査結果の要旨

[論文の要旨・価値]

Single RING finger人工的ユビキチンリガーゼでは標的蛋白質の分解が起こらないことが報告されている。そこで、家族性乳癌の原因遺伝子として同定された癌抑制遺伝子であるBRCA1とBARD1のdouble RING fingerユビキチンリガーゼを細胞工学的に作成し、標的蛋白質を分解するか否かを検討した。その結果、このdouble RING fingerユビキチンリガーゼはプロテアソーム依存性に標的蛋白質を分解することが判明した、さらに、この人工的標的はCDKIの一つであるp57蛋白質を分解し、その分解が量依存性、プロテアソーム依存性であることをも確認した。本研究の結果は癌遺伝子治療に応用できることを示唆した価値の高い論文である。

[審査概要]

ユビキチン/プロテアソーム・システムについての説明がなされ、この系で最も重要なのはユビキチンリガーゼであり、HECT型とRING型に大別でき、RING型が癌研究にかかせないものであることを強調した。次いで、本研究の方法、結果、考察について発表された後、質疑応答が行われた。今回、細胞工学的に合成した人工的酵素活性について、nativeなものとの差、特異性はどこにあるのか、結合する部位など質問が有る確かな回答が得られた。一方、実際に使用した細胞(293T細胞、U2OS細胞)の由来、性状についての質問には明確な回答が得られなかった。最後に、将来的に臨床応用を目指している当人工的酵素の遺伝子治療の可能性も示され、本研究の意義が確認された。十分学位授与に値すると判断した。

[主論文公表誌] BBRC 295



追い込まれています

中村 学

現在、稲城市立病院耳鼻咽喉科にて臨床勉強中の中村学と申します。去年までは、聖マリアンナ医科大学難病治療研究センターにて「プロテオミクスを用いたアレルギー性鼻炎における自己抗体の網羅的解析」という研究テーマで研究を行っておりました。研究内容を申しますと、アレルギー性鼻炎患者血清中に抗IgE抗体等の自己抗体の存在が最近言われてきております。そこで、未知の特異的自己抗原を発見するために、プロテオミクスという手法を用いました。プロテオミクス (proteomics) とはproteome解析を基とするタンパク質の大規模解析のことで、その中のメインの手法にMS解析というものがあります。これはノーベル賞の田中さんで有名な質量分析機などを用いた解析です。このような新しい手法を用い結果は出ましたものの、もう大学院4年目というのにまだ論文は書いておりません (8月現在!)。そのため、昼は臨床、夜は研究という生活を送っております。諸先輩のお話を聞くと私なんかはまだ甘く、もっと悲惨な生活になっていた方も数多くいらっしゃるということです。「眠れるだけおまえは幸せだ。」とのご指摘もあり、まだまだがんばらなければと痛感しております。これからもmotivationを高く持ち臨床と研究の2つとも精進しようと思います。

(私、この研究やっています)

こんにちは

田中 泰彦

僕の研究課題は「再発性多発性軟骨炎 (Relapsing Polychondritis : RP) 患者血清中の疾患特異的IgGの検出」です。RPは全身の軟骨を主病変とする、多臓器障害性原因不明の疾患です。再発性、反復性で気道閉塞などの重症の障害を来したり、血管炎や他の自己免疫疾患を合併します。急速に発症し、耳介軟骨炎、鼻中隔軟骨炎、めまいなどの耳鼻咽喉科症状の他、眼症状、関節炎、紅斑、心弁膜不全、神経症状など、その臨床症状は多彩です。(Trentham (1998) によると耳介軟骨炎の臨床症状頻度は、85~95%になります。) 抗Collagen (Type2、9、11) 抗体が出現し、軟骨組織に抗体、補体沈着がみられることから、自己免疫の関与が推測されています。そこで僕の実験では、RPにおいて特異的な自己抗体等があるのか、二次元電気泳動、Western Blotting、田中さんのノーベル賞受賞で有名になった質量分析機 (但し大学のものは田中さんのではない) による解析などを行い蛋白の同定を行おうというものです。肥塚教授のバックアップもあり難病治療研究センターの加藤助教授のもとで実験をさせて頂いています。実験など、大学生の時以来なので失敗が続いて閉口していますが、よい結果が出るよう精進したいと思います。

VIVA EB

齋藤 晋

この度、4月から大学院生として微生物学教室に入ってから早くも半年が過ぎようとしています。

す。もともと学生時代の成績が生化学不可、微生物学不可と今まで全く勉強に縁のなかった人間が、いきなりすばらしい研究ができるわけもなく、日々慣れない実験手技と今まで使ったことのない頭を使うことに追われています。

現在、私はEBウイルスの研究などを行っていますが、微生物学教室のすばらしい先生方にめぐまれ、失敗も多いですが着実に研究はすすんでいると思っています。御存知のようにEBウイルスは伝染性単核球症など様々な耳鼻科疾患に多く関与しており、なかでも上咽頭癌は頭頸部癌のなかでは珍しい癌の1つであるけれどもEBウイルスが関与している癌であると認識されています。しかしながらEBウイルスの上咽頭癌における作用機序については未だ不明な点が多く、今後の更なる研究が期待されている領域です。本学には大学3階に先端医療研究施設が設置されており、プロテオミクスという普段聞き慣れないような実験手法により、かなり内容の濃い研究を行うことができます。

大学院の卒業にはもうしばらくかかりますが、学位云々にこだわらず、ここで習得できる緻密かつ論理的な物事への考え方を学んでいき、今後の研究や臨床に生かしていければと考えています。

私の大学院生活

島田 園子

2年間の研修期間を終え、私は4月から耳鼻咽喉科の大学院生となりました。大学院の研究の内容については、難病治療研究センター先端医薬開発部門薬効評価研究室の川合眞一先生のもとで研究させていただくことになりました。この教室では主に炎症性疾患の治療薬の基礎的研究、シクロオキシゲナーゼ (COX)・プロスタグランディンE合成酵素 (PGES)、RA滑膜の病態形成とアポトーシス誘導などの研究が行われています。今回、私は耳鼻科的疾患におけるCOX、PGESの関与についての研究をさせていただくことになっています。

しかしながら、現在はB班 (鼻疾患・急性炎症性疾患) の一員として手術、病棟、外来があり、難治研には毎週水曜日のカンファレンスに参加するのみという状態です。今年は少しずつCOXやPGESについて勉強しながら研究テーマを決定し、来年の実験開始に向けての準備期間といったところです。

ともかく、今年1年は大学院1年目というより、研修医1年目に戻ったような状態で朝から入院患者の診察・処置や、病棟・外来業務に追われる毎日です。今年は2名の研修医が入局し、初めて先輩になったプレッシャーを感じつつ、関連病院でもっともっとハードに働いている同期に置いていかれないように、と思いながらも、ただ毎日が過ぎていく状態です。

大学院生便りのはずが、報告できることが何もなく恐縮ですが、自分なりの目標を持ってがんばっていきたいと思っています。これからもどうぞよろしく願いいたします。

VIVA VERTIGO

鈴木 一輝

大学院1年目の鈴木一輝です。現在本院にて臨床及び研究をさせて頂いております。

研究に関しては、渡辺先生のもと、前庭一動眼反射に関する研究をしております。しかし、コンピュータの扱いからデータの取り方・解析まで不慣れなことが多く、なかなか進んでおりません。

現在やっている内容としては、前庭一動眼反射の適応現象の経時的変化についてデータをとっているところです。といってもまだ最初なので、私と渡辺先生でお互いにグルグル回りあってデータの取り方を考えている状態です。今後実験の方法が煮詰まってきたら、諸先輩方にもグルグル回って頂き、いいデータをとらせて頂きたいと目論んでおります。

臨床でも研究でもまだまだ若輩者ですが、今後も諸先輩方には御指導・御鞭撻の程頂きたいと存じます。よろしく願いいたします。

OB 通信

近況報告

みなみ耳鼻咽喉科医院

南 定

平成6年2月、前日まで元気に診療していた父が脳溢血で突然他界し、当時竹山主任教授の下、医局長の職を仰せ付かっており、すぐに医院を継承することは困難で約1年のブランク後、竹山先生の退官とともに平成7年4月に父の開業していた渋谷区幡ヶ谷で改めて耳鼻咽喉科医院を開業しました。開業当時は1日20人ぐらしか患者さんが来なく、半径1.5キロに耳鼻科医が10人も開業しており「本当にやっていけるのか」不安な毎日でしたが、「まあ、なるようにしかならない」と開きなおし、竹山先生の「患者さんのことを第一に、患者さんの気持ちを考え診療する」の教えをもとに地域医療に励み約8年6ヶ月が過ぎました。おかげさまでスギ花粉の季節には200人ぐらいい来院してくれるようになりました。また、去年までは、渋谷区医師会の理事を務め、医師会のいろいろな世界も体験でき、とても勉強になりました。

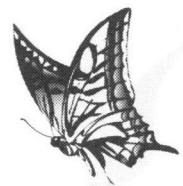
開業医は、大学病院などの大きな施設に来る重症の患者さんとは違い、生活の一部の中で、少し具合が悪くなって来院する人がほとんどで、また土地柄というのもあり、人それぞれの生活状況も違い、ふところ状況なども考えなければいけません。薬も同じ効果なら安い方を処方し、検査も人によっては、徹底して検査をしてほしいと言う人もいれば、検査はいいから薬だけほしいという人もいて、問診をしている時にそれらを判断しなければなりません。しかし開業医としていちばん苦勞するのが職員の問題です。どうしても職業柄職員は女性で、仕事が慣れてやっとなら使えるようになると結婚・育児などの問題で退職してしまう。

この繰り返しで常に職員を募集しているような状況です。

ふたりの息子も中3と中1になり少し手が離れ、幸い二人とも私立なので大学受験まではのんびりできればと最近夫婦でゴルフ場の会員になり、月に2~3回一緒にコースをラウンドしています。また、同門会会員の上杉先生・菅野先生・佐久間先生・荻野先生・鈴木毅先生・鳥越先生・三井先生達とも時々ラウンドさせていただきゴルフライフを楽しませていただいております。

今回、岡田先生から四門会誌の原稿依頼が「近況報告」という題名であり、とりとめのないことを書いてしまい申し訳ありませんでした。今後ともよろしく願います。

追伸・菅野先生はこの前のラウンド・ハーフ38でプロのようでした。



アスリートゴルフのお誘い

菅野耳鼻咽喉科

菅野 澄雄

宮前区の鷺沼駅から車で5分ほど走った港北ニュータウンに隣接する有馬というところで開業して8年目になります。医者の方のゴルフ好きはどこでもいっしょだと思いますが、特に宮前区は盛んで春にはマリアンナとの合同ゴルフコンペ、秋には医師会独自のコンペがあります。また川崎耳鼻科医会では年に2回盛大なゴルフコンペを行います。私も健康のために開業と同時にゴルフを始めました。どうせならきちんと習いたいと思い近くのゴルフスクールに通い続け、今では出欠表の先頭に名前が来るほど最古参となってしまいました。他の習い事であればそれだけ習えばある程度上達してお免状の1つでも取れると思うのですがゴルフはそう簡単にはいきません。そのうちにマイコースが欲しくなり、千葉県君津市のジャパンPGAゴルフクラブに入会しました。今では鳥越達也先生や鈴木毅先生もメンバーになってもらいました。このコースの良いところは20名ほどの研修生といっしょにラウンドできることです。目の前で本物のゴルフが見られる事はなんと言ってもすばらしい事です。どこまでもまっすぐ飛んでいく第1打、果敢に攻める2打目、グリーン上での微妙なタッチそしてホールイン。それまでのゴルフに対するイメージが変わりました。今までは接待ゴルフに象徴されるようにお酒を飲みながら楽しくまわって、最後はお風呂に気持ち良くつかり、お気楽なゴルフをしていました。今では体育会系の乗りで真剣に取り組んでいます。朝は入念なストレッチング、ラウンド前の練習は打席ではもちろん、パッティングも出来るだけ長く時間を取り、足の裏から大地の感触を得られるようにします。18ホールは頭の中で攻め方を考えながら集中して回ります。お昼はビールを飲みたいところを我慢してアイスコーヒーにします。「やだねそんなゴルフは」といわれそうですが、なかなか入

れ込むと面白いものです。最近では同じ志の仲間が増えて毎月第2木曜日にプライベートの月例競技会を2~4組で行っています。賞品や表彰は何もないのですが、毎月のスコアは鈴木先生に管理してもらい参加選手の上達の度合いがわかるようにしています。私の目標は、フルバックからラウンドして80台のスコアで回る事です。しかし7000ヤード近くある難コースのため、道のりはまだまだ遠そうです。皆様もよろしければ第2木曜日朝8時にジャパンPGAゴルフクラブアウトコースでお待ちしています。月例PGA事務局の鈴木毅先生か私に連絡を頂けたら幸いです。



大橋 徹教授退任記念パーティー開催さる

岡田 智幸

去る平成15年3月20日（木）ホテルセンチュリーハイアット（新宿）にて、大橋 徹教授退任記念パーティーが開催されました。

明石勝也副理事長兼病院長をはじめ、来賓の順天堂大学教授 市川銀一郎先生、金沢医大教授 友田幸一先生、我が医局卒業生の新潟大学教授 高橋 姿先生、学内外あわせて約200名という多数の先生方、そして職員の方々のご列席を賜り、成功裏に終えることができました。

ご来賓のお言葉は、大橋先生の人柄を眼前に見るような、あるいは手に取るようにわかる内容のお話ばかりで、改めて裏表のない素直な先生の人柄を確信しました。

最後に、奥様から一言「亭主元気で、留守がいい」。笑いと動揺が会場内を走りました。

良妻賢母、正に大橋先生の奥様のことでしよう。また、奥様あっての大橋 徹教授が垣間見えた気がします。



大橋 徹 教授 ご略歴

1938年 静岡県生まれ
 1964年 信州大学医学部卒業
 1969年 信州大学大学院卒業、学位論文題目：「感音系難聴（特にsensory neural defects）における蝸牛神経活動電位」
 1973年 静岡赤十字病院耳鼻咽喉科副部長
 1974年 同 部長
 1976年 筑波大学臨床医学系講師（耳鼻咽喉科）
 1984年 同 助教授
 1988年 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科助教授
 1989年 同 教授、
 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院部長
 2003年 定年退任
 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科客員教授
 現在に至る

大橋先生は、1967年信州大学大学院時代に、恩師吉江信夫先生（後の筑波大学教授）とともに世界で初めて、ヒトの蝸牛図（EcochG）記録に成功され、日本聴覚医学会のtycoonと称されておることは、周知のことと思います。学会活動として、耳鼻咽喉科臨床科学会評議員、日本鼻科学会評議員、日本喉頭科学会評議員、日本耳鼻咽喉科アレルギー学会評議員、日本聴覚医学会編集委員、耳鼻咽喉科臨床科学会編集委員等を歴任されております。

第二の本能の正体は小脳です

渡辺 昭司

一歩前に出ると十歩遠のく。十歩前に出ると百歩遠のく。研究とはこのようなものようです。

小脳の重さは130gで脳の1/10しかありません。しかしここには大脳よりもはるかに多い神経細胞が存在しています。大脳には140億個の神経細胞がありますが、小脳には1000億個以上の神経細胞があります。脳の大部分の神経細胞は小脳にあると言えます。また、動物実験をやったことのあるヒトならすぐに気づくことですが、ラット、ネコ、ヒトの脳を比べると小脳の容量の増大が大脳の容量の増大以上に起こっているのです。進化の過程は小脳の進化の過程なのです。小脳は深部に核がありそれを皮質が取り囲んでいます。皮質の総表面積は大脳皮質の表面積の45%に相当します。小脳の基本的な構成要素は5つの神経細胞(プルキンエ細胞、ゴルジ細胞、顆粒細胞、バスケット細胞、星状細胞)とそれらを連絡し合う3つの線維(登上線維、苔状線維、平行線維)です。これらがシナプスの可塑性を持ってつながっています。この可塑性こそが小脳の最大の役割だと思います。可塑性とは一言で言えば、第二の本能です。自転車に乗れるようになる、ピアノが弾けるようになる、泳げるようになる、柔道の技などの何万回もの稽古の末に習得して体が覚えた記憶のことです。生命が生存していくうえでの環境への適応現象でもあると思います。この可塑性を説明するためのモデルを図に示します。

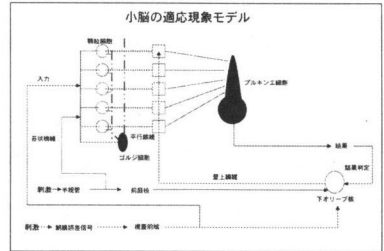
網膜および半規管からの刺激が信号となり苔状線維より顆粒細胞とゴルジ細胞の層に達します。信号がこの層を通過すると信号の位相がすこしずれて平行線維に現れます。一方で外界からの信号は下オリブ核へも達します。ここでの信号の位相はそのまま伝えられると考えられています。下オリブ核からは登上線維を介して先に述べた平行線維と接します。この時には苔状線維からの信号と登上線維からの信号とで位相のずれが

あるわけですが、できるだけ登上線維からの位相に類似したものが生き残

ります。再度刺激が変わればまたそれに類似した位相のものが残ることによって随時環境に適応できるわけです。

僕は今までに視覚一前庭動眼反射の適応現象について実験をしてきました。その主なテーマは、一つの条件で適応現象を獲得するとそれは他の条件へも移行するのかというものです。結論としては、ある条件で獲得した適応現象は他の条件へはあまり移行しないようです。つまり、自転車に乗れても泳げないということでしょうか。ヒトはさまざまな条件に適応できるだけの予備能をあらかじめ携えています、その能力を賦活するには一つづつ反復しなければならないようです。また、小脳は大脳と無数の線維連絡があります。これは小脳が単に体で覚えた運動系の記憶だけを担っていると考えるのは無理があると思います。小脳はかなりの部分で大脳の役割を担っているのではないかと思います。大脳がやっていると考えられている知的活動でもいつのまにか無意識でもできるようになっていることはたくさんあります。40歳を超えるとそのようなことのほうが多いかもしれません。個人の習慣や癖もそうかもしれません。

今後は実験動物に適応現象を獲得させて小脳をすりつぶして適応現象に特異的なタンパク質を探ってみたいと思っています。そのようなタンパク質が発見できれば薬への開発へつながるかもしれません。そうなるノーベル賞かもしれません。夢は大脳かな、小脳かな？



満喫しています

島田総合病院 井原 佳美

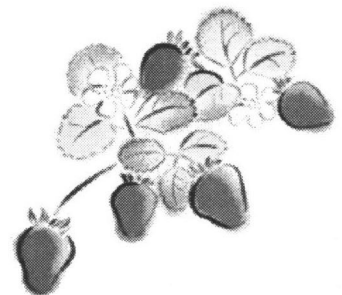
平成15年4月、医局より島田総合病院に常勤医として派遣されてから6ヶ月が過ぎました。小林先生のご指導のもと、5名のスタッフと共に診療にあたっています。この度、原稿依頼を賜り、私の生活の一部を近況として報告させて頂くことになりました。

当院は千葉県の北東端、茨城県との県境の港町「銚子」に位置し、MRI、CT等の設備を備える総合病院として市民の健康を支える拠点となっています。耳鼻科外来患者数は平均して約90～100名位で、ご年配の方と子供が多く、予防医学の充実という医療ニーズに対応して、人間ドックの患者さんが毎日10名程受診します。初めは、土地の言葉がわからず、外来診療が思うように進まず歯痒い思いもしましたが、最近ではようやく方言にも慣れ、患者さんとコミュニケーションがスムーズに図れるようになりました。また、大泣きをして処置に手をやいた子供達が、私の顔を覚えてくるにつれ、自ら診察台に座りおとなしく処置を受け、帰り際にカーテンから顔をのぞかせ「またね。」と笑顔を見せてくれるようになったこと

をととても嬉しく思います。

島田総合病院へ派遣の任を賜った当初は、見知らぬ土地での初めての一人暮らしに不安を覚えましたが、いざ住み始めると、ホームシックなどという言葉はあっという間に消えてしまいました。穏やかな気候、びっくりするほど新鮮な魚や野菜に魅せられ、今ではすっかり銚子ライフを満喫しています。「銚子に来てよかった。」が口癖になっている私は、体力作りのため入会したスポーツジムで患者さんと共に汗を流し、病院のコンペがきっかけで再開したゴルフにも学生時代より熱心に取り組んでいます。

最後になりましたが、これからも小林先生、岡田先生をはじめ、手術のため遠方から足を運んでくださる肥塚教授、他科の先生方の御指導を仰ぎながら、銚子の地域医療に貢献できるよう精一杯頑張っていきますので、よろしくお願い申し上げます。<o:p>



新入局員紹介

平成 15 年度入局

よろしくお願ひ致します

小野 智宏

国家試験の合格発表が終わり、早いもので耳鼻咽喉科学教室で研修医として働き始めて10月で半年になりました。学生の臨床実習以来となる白衣姿ですがそろそろ板についてきたでしょうか。この科では難聴やめまい、あるいは頭頸部癌といった患者さんを主に診させていただいています。様々な疾患、その症状に対する多様な訴えや価値観を持った患者さんとのふれあいを通して改めてその人の目線で物事を捉え、そしてそこから生まれる信頼感の大切さを実感する毎日です。医療においては知識も経験も全てにおいて若輩な自分ですが、幸運にも良い職場と素晴らしいスタッフに恵まれ、これから医療職の第一歩という貴重な時間を過ごさせていただいています。末筆ではございますがこれからもより一層精進し経験を重ね、奉仕者であり科学者として白衣に袖を通すことに誇りを持てるような医療職人を目指していきたいと思ひます。

初期臨床研修をはじめて

深沢 雅彦

研修医としての生活が始まり、五ヶ月が過ぎました。諸先輩方々には日頃より、右も左もわからない自分にご指導していただき、大変ご迷惑をおかけしているとともに感謝の気持ちでいっぱいです。

最初の三ヶ月は耳鼻科に、残りの二ヶ月は麻酔科にと、少し変則的であわただしかったです。大変充実した五ヶ月を過ごす事ができました。耳鼻科では腫瘍班に所属させていただき、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、甲状腺腫瘍、舌腫瘍、咽頭腫瘍、喉頭腫瘍など幅広く、その手術、放射線療法、化学療法等治療からターミナルケアとしてのペインコントロールにいたるまで、とても三ヶ月間とは思えない内容量でした。また麻酔科においても、二ヶ月間と短い時間ではありましたが、耳鼻科の麻酔はもちろんのこと、心臓外科や脳神経外科にいたるまで、その数100件以上は麻酔をかけることとなり、挿管の手技や、脊椎麻酔、硬膜外麻酔まで十分にやらせていただきました。大変驚かされたのがどちらにおいても共通していたのが、これだけ忙しく次から次へと患者さんと向き合うこととなるにもかかわらず、その一人一人に対して全力で取り組んでいるということでした。当然のことであり、ごく普通のことかもしれませんが、それを自然とできてしまう先輩方々の姿に、一日でも早く自分もそうなれるよう今まで以上に真剣に医学に取り組んでいかなければなら

ないことを痛感させられました。

また再度耳鼻科にもどり後六ヶ月間、スーパーローテーションに出るまでの間お世話になります。一人の医師として少しでも見られるようになるために、日々努力していくつもりです。今後とも何かとご迷惑をおかけすることと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

右も左もわからない
お上りさんですが
よろしく申し上げます

西新橋クリニック
大草 方子

皆様、初めまして。今年7月より週1回、研究員としてお世話になっております、大草 方子と申します。私自身は今年6月から西新橋のクリニックで勤めております。4月までは医誠会病院に勤務し、月に2回大阪大学で感音難聴外来を担当しておりました。

関東では知人も少なく、少々不安に思っておりましたところ、たまたま5月の日耳鼻総会で肥塚先生にお目にかかりました。肥塚先生には、昭和63年に大阪大学で研修して以来、お世話になっておりました。その際に味覚外来をしてみないかという、ありがたいお話をいただき、喜んでお願いさせていただきました次第です。おかげさまで8月から、土曜日に担当させていただいております。

関西では武庫之荘（尼崎市）に住んでいたのですが、自宅からは甲子園球場が見え、試合の盛り上がったときには、歓声が届くようなところでした。ちょうど阪神が貯金し始めた頃に引っ越してしまったので、今頃どんなに大騒ぎになっていることか…近所にも熱烈なファンが多く、「今年はどう？」と聞くと、「まあ、Aクラスと

ちやうかな」と皆とても慎重でした。こちらに来てから初めて、肥塚先生もファンだったことを知りました。また「六甲おろし」を作曲された方が、川崎市出身とも聞き、不思議な因縁を感じております。

味覚のことは、まだまだこれからなのですが、一生懸命勉強させていただきます。どうか皆様、今後ともよろしくご指導、ご鞭撻のほど、お願いいたします。



医局便り

赤澤 吉弘

昨年は研修医0という不作の年でしたが今年は2名の研修医、深沢先生、小野先生が入局しました。来年からの研修医は2年間の総合診療方式のローテーションとなるため、今年の2名が耳鼻咽喉科最後の研修医となる予定です。深沢先生、小野先生ともキャラクターが濃く最後の研修医にふさわしい2名です。簡単に紹介します。深沢先生はマリアンナ出身で学生時代はサッカー部の副キャプテンを務めていたそうです。まじめで知識が豊富なのですがしつこい性格で嫌われています。一方の小野先生は東京医大出身で宇宙平衡に興味があり当科に入局しました。学生時代は指輪職人として生計を立てていたそうです（詳細不明）。いまだ謎の多い人物です。

さて今年も恒例の医局旅行が7月5日、6日開催されました。今年は熱海の旅館、立花でこの数年で最もきれいな旅館でありました。宴会では大橋

先生が御退職されたためだれが乾杯の音頭をとるかでもめました。みなさん御想像のとおり岡田先生にやっていただきました。歓談のあと新入医局員と新人看護師さんによる芸が行われました。なぜか6年目の中村先生が前座をつとめ、会場をひととおり温めた後、舞台上に新人が登場しました。深沢先生と小野先生の変態さが際だつ芸で会場には微妙な空気が流れました。また肥塚先生の誕生日が7月15日ということで医局員から阪神タイガースのグッズやネクタイがプレゼントされました。その後2次会、3次会、マージャンと大いに盛り上がった夜でありました。

今年も阪神タイガースが優勝しました。10月8日タイガースファンの肥塚先生の音頭のもと居酒屋を貸切り、宴会が行われました。他球団のファンの方も参加し大きな混乱もなく楽しく終了しました。



ありがとう

ありがとう・・・

秦野赤十字病院 大橋 徹

私事、本年3月、無事定年退職となりました。15年間、本学耳鼻咽喉科学教室にお世話になり、題名通り教室の皆様方に心からお礼を言います。ありがとうございました。

筑波大学から移ってきた当初、竹山先生、加藤先生を初め皆様方があまりに優しく親切に接してくれるのに戸惑いましたが、これが聖マ医大の素晴らしい教室カラーだったのですね。

来たばかりで右も左も分らぬ上、茨城県の山奥ではろくな魚類も食していなかりとうの配慮で、当時の医局長の渡来先生が「常正」の美味しい寿司をご馳走してくれた事、又、女医の先生たちが寂しかろうということで、少しあやしげなフィリピン人のオカマクラブに連れて行って下さった事、etc…… 嬉しくも驚き、東京はやはり違うと感じ入った事など、今は懐かしい限りです。15年間の在局生活は（1年少しで西部病院に移りましたが）あっという間に過ぎ去りました。

この間、6名の学位取得に協力できた事が非常に嬉しく、又、私の誇りでもあります。

ただ、教室自体の発展、向上には殆ど貢献していない点が恥ずかしく申し訳ない気持ちで一杯です。

現在は、肥塚先生のお世話で秦野赤十字病院に非常勤ながら勤める事が出来、私の望みであった耳科手術を今まで以上に行ない得る環境に十分な満足感を抱いているこの頃です。

秦野市は風光明媚な所で富士山が美しく映る場所でもあります（もっとも富士山が分らぬ教員の方が一人おりました）。

こちら方面にお出での際はぜひご連絡ください。服部先生共々にご案内いたします故。

皆様方、本当に長い間ありがとうございました。

教室の更なる向上、発展を心から祈っております。

医局生活を振り返って

横浜総合病院 赤尾 一郎

1～2年目：昭和61年入局、その年は計9名の入局者がいた。研修医1年目は3人ずつに分かれ、病棟、外来、他病院（東横、稲城、登戸）を3ヶ月ずつ回り、後は他科ローテーションに出た。当時のローテーション先は希望できたので、第二外科の脳外科（3ヶ月）、第二内科の神経内科（6ヶ月）で研修させていただいた。|本来医療はこうあるべきだ、そうならないのは医局の体制がおか

しいなどと周囲と協調しようとせず、非常にとんがっていた時期である。カラオケでは良くシャウトし、歌って踊れる耳鼻科医を目指したが、挫折した。|

3年目は西部病院に勤務。出来たばかりで非常にきれいであり、活気があった。食事がうまかった。耳鼻咽喉科としてチーム医療を体験できた。この1年間でいろいろと手術手技、外来処置

などを覚える事ができた。{父が病気になり、実家（鎌倉）の医院に医局から医師を派遣してもらった。その後、父は無事復帰。大学院には行かなかった。}

4年目は国立がんセンターの病理部で1年間研究業務についた。特にテーマはなかった。その当時は分子生物学的技法の初期であり、PCR法が開発されたばかりであった。EBV-DNAと上咽頭癌の関係について調べた。ひとつのことをペーパーにするのにこれだけ苦労するのかと驚いた。{リサーチを通して物事の考え方が格段に進歩した。また、金銭や時間に対する考え方が変わった。非常に有益な1年であった。}

5～7年目：大学病院勤務。癌の研究をしていたということで、おもに腫瘍班として医療に従事した。いろいろな経験をさせていただいた。人の死に対して無頓着になっていった。如何にその人のエンディングを演出するかなども考えるようになってしまった。{私生活：結婚、長女誕生。忙しくてばやきが多かったが、この時期が一番充実していたかもしれない。ゴルフコンペのハンディが毎回変わることに憤りを覚え（前回のデータの申し送りがされていない）、10回くらい連続で幹事を担当した。外勤で実家を手伝うことになったが、給与が高いと2か月で解雇された。父完全復活！}

8～9年目：実家の近くの大船中央病院に勤務。そろそろ1人で外の常勤をと考えていた頃であった。1人の気軽さ、大変さ両方とも経験できた。2年間で30件くらいしか手術がなかった。{長男誕生。他大学の先生方と知り合うことが出来た。当大学が恵まれている部分、そうでない部分

を知る。いまだに交流がある。}

10年目は西部病院に勤務。毎回、地方会に何かを出そうと常に考えていた。結局、症例報告ばかりであった。今まで経験しなかった事務的なことが増えてきた。いろいろな委員会や書類の提出があり、これらによって病院が運営されていることを知った。

11年目から現在まで。横浜総合病院勤務となる。週に1回、実家の医院を手伝うことを許された。この経験が非常に役に立った。患者を送る方、送られる方、両方の立場を同時期に経験できたのはありがたかった。近隣には聖マリを含め大学病院が3つ在り、独自性を出さなくてはやっていけないと判断。耳鼻科医会や医師会の集まりへは積極的に出席、紹介患者については診断、その後の経過報告などをまめにするよう心がけた。平成14年に研修指定病院の認可を受ける事ができた。あと、この病院では経営面での理解を深めることができた。医師の給料体系の交渉、年間の売上の分析、保険制度の改定に伴う減益見積もり、設備投資に伴う増益の試算など、今まででは考えもしなかったことであった。

昨年度いっぱい退局し、計16年医局に在籍したことになる。多くの人に支えられて耳鼻咽喉科医として業務を遂行することができた。感謝したい。振り返ってみるとあつという間である。生活面、精神面でも少しは成長したのかもしれない。漠然とであるがこういう医療をしてみたいという形が見えてきた。来年度からはこれらの経験を元に自分のやりたいことを開業医として実践していきたい。

ありがとう . . .

宮部耳鼻咽喉科医院 宮部 聡

4月から新しい生活がスタートし、はや半年は経ちました。医局での生活を振り返ると、多くの良き指導者、先輩、後輩に恵まれたと思います。

ESSの多くの症例を経験できました。初期は安全に施行する事が精一杯でした。研修会に参加したり、試行錯誤の末、自分のスタイルを作るのに

時間を要しました。

また、患者から多くを学びました。

医局長の2年間は今思うと精一杯やり過ぎ、迷惑をかける事が多かったのではと反省する面も多々あります。

困った時、失敗をした時、助けられた事の方

が記憶に残り、いい思い出になっています。

医局は、トップランナーである教授の背中を観て学ぶことができる唯一の組織ではないでしょうか。医局で身につけたものが現在の診療スタイルに繋がっており、多くの先輩、後輩の方々に深く感謝したいと思います。

お世話になりました

鈴木耳鼻咽喉科医院 秋山 由香里

平成に年号が変わり初めての国家試験に合格して医師になり15年、この春、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室を退職いたしました。少し寄り道をしていたせい、同期のなかでは一番最後となってしまいました。学生時代を含めると人生の半分を過ごしました菅生の地を離れますのは感慨深いものがあります。

この15年、多くの先生方にご指導いただきましたことを深く感謝しております。もともと父が耳鼻科医でしたので、その道を進むべく入局しました。7東の病棟で同期の鈴木毅先生、三保先生、倉田先生と喉頭鏡の練習をしたのを覚えています。研修医終了後はローテーションで興味を持った麻酔科大学院へ進むこととなりました。op室では、文句ばかり言って申し訳ありませんで

した。大学院終了、結婚と人生の大きな変化を迎え、耳鼻科へ戻ることとなりました。6年のブランクを経て稲城市立病院へ派遣していただきましたが上司の鈴木毅先生はさぞかし心許なかったことでしょう。

このように歩んでこられましたのは、ご指導、ご助言いただきました先生方、毎日の診療で支えてくださいましたスタッフの皆様のお陰と感じております。本当にありがとうございます。ここをひとつの区切りとして、さらに長い年月を医師として歩いていく事になります。ひとりの女性として医療に携わってゆくことに不安もありますが、少しずつ前進していきたいと思います。

最後になりましたが耳鼻咽喉科学教室のさらなる発展をお祈りしております。

振り返って

藤田病院 杉浦 夏樹

「アレストだ！ 心マ！ 麻酔科も呼んで！」入局してからの思いを辿るとき、始めは決まってこの場面からです。若い女性に対する気管切開術を私の所属していたD班で施行していました。聖路加病院で外科系の研修を終え、耳鼻科未経験で医者3年目に当時竹山教授の耳鼻咽喉科教室に入局させていただき、3日も経たないうちに起きた出来事でした。幸い速やかに、後遺症なくリカ

バーし胸を撫で下ろしたと同時に、これは前途多難かなと思った記憶があります。

今年の3月で大学を退職し現在、医院で日々診療にあたっていますが、ふと振り返ると医局に所属していた9年間のなんと刺激があり、辛かったことも楽しかったこともまとめて変な意味ではなくおもしろかったな一という思いが巡ります。1年1年が鮮明に映像として、声として心の中に

残っています。

最初の年、堤、岩武、毅先生のいわゆる腫瘍中心の班に入れていただき、新谷、関、菱澤先生が研修医で入局してきて各班をローテーションしていました。私は3年目でしたが、耳鼻科は全然経験がなく通気やら、間接喉頭鏡やら慣れるのにたいへんでした。なにかしらコツがないのか？と上の先生方に聞きまくってました。その後、稲田登戸病院で半年を馨子先生とほんの2、3ヶ月を木下先生につかせていただき良性のオペを中心にマンツーマンで教えていただき、そして大学院の仕事として1年半、北里大の病理学教室に国内留学させていただきました。論文は堤先生におんぶに抱っこでたいへんお世話になりました。また基礎系の方々の地道な仕事に頭が下がる思いでした。大学に帰り、田沢一芋川先生と堤一芋川先生の腫瘍班に入り小宅、内田、榎並、松尾先生らが入局してきたのもこの年でした。悪性腫瘍の患者さんのつらさが身にしみ、この1年は1日が病院にいて終わる感じでした。研修医だった小宅先生とよく大学近くで遅い夕食をとったものでした。水戸済生会病院では1年間、金山先生にたいへんお

世話になりました。目からウロコのことがいっぱいありました。最後の4年間は東横病院で越智、小松崎先生、1年毎に岡本、俵道、小林 斉藤、西野先生方が回ってきて一緒に仕事をさせてもらいました。越智先生には論文、学会発表など一から教えていただきました。最後の年、「内視鏡手術は任すから」と言ってもらい嬉しかったことを憶えています。また歴代教授の竹山先生、加藤先生、大橋先生、現新潟大教授の高橋先生、現教授である肥塚先生からは要所所所でご指導、励ましなどいただき感謝しております。

こう振り返りますと、自分には常に誰かの支えがあり先輩、後輩大きく言わせていただければ仲間がいたと思えます。この医局の中で、どなたかの一言、手術、外来または行動で、自分の診療などさらに言えば生き方にもヒントや刺激をもらった思いです。この場をお借りして私と関わっていただいたすべての方、本当にお世話になりました。ありがとうございます。そして医局を離れたこれからもよろしく願い致します。医局の益々の発展を祈念致します。

仕事をしたい今日この頃です

山根 あゆ子

早いもので、私が仕事を辞めてから半年が経ちました。この半年というもの、今までと全く違う生活となり、慣れない家事と格闘する日々を送っていました。今でも学生時代の友人と会うと、必ず仕事の話になります。現在、私の同期は三年目となり、皆それぞれの仕事ぶりを聞くと、やはり置いていかれる様な寂しい思いもあります。

さて、研修医時代、特に一年目のことを振り返りますと、耳鼻咽喉科では様々な事を学ばせていただきました。病棟では急性期や慢性疾患の患者さんを持ち、二年目のローテート先の内科で、感染症をはじめ癌の患者さんにも、耳鼻咽喉科での経験を生かすことが出来たと思います。また、

一年目で早くも外来経験をして、患者さんとの接し方や診断の手順などを少しでも学ぶことが出来ました。

医局におきましては、とても恵まれた環境で、常に相談できる先輩がいました。また、厳しく指導して下さる先生や、支えてくれる同期がいました。それだからこそ、私は二年間を耳鼻咽喉科で過ごすことが出来たと思っております。

今、私は仕事から離れた立場に居りますが、耳鼻咽喉科での二年間を忘れず、必ず仕事に復帰したいと心に決めています。このように思うのも、二年間お世話になった医局の皆様のお陰だと思います。本当にありがとうございます。皆様のご活躍を心よりお祈りいたします。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章 総 則

第1条 (名 称)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会と称する。

本会は、通称を四門会と称する。

第2条 (事務局)

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章 目的および事業

第3条 (目 的)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

第5条 (会 員)

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条 (会員の入会手続)

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。

第7条 (会 費)

- (1) 会費は細則に定めるところにする。
- (2) 会費は前納とする。

第4章 役 員

第8条 (役員)

本会は会長1名、副会長1名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条 (役員の任期)

- (1) 本会の役員の任期は、原則として4年とする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (3) 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条 (役員の職務、権限)

- (1) 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- (3) 理事は理事会を構成し、この会則に定めるもの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- (4) 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- (5) 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条 (役員を選任)

- (1) 理事および監事は聖マリアンナ医科大学卒業生の会員により推薦され、総会にて承認得たものとする。
選出の方法は細則による。
- (2) 理事の中に推薦理事と名誉理事を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授をこの推薦理事とする。また、代表教授退任後は名誉理事とする。
- (3) 会長、副会長は理事の互選とする。
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章 会 議

第12条 (総会)

- (1) 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- (2) 総会は会員の3分の1以上の出席(委任状を含む)をもって成立する。
- (3) 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- (4) 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可不同数のときは議長が定める。
- (5) 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条 (理事会)

- (1) 理事会は会長がこれを召集する。
- (2) 理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- (3) 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。
- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章 事務局**第14条 (事務局)**

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

第7章 会計**第15条 (本会の経費)**

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条 (会計年度)

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終える。

第8章 会則の改正**第17条 (会則の改正)**

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章 その他**第18条 (その他)**

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

第19条 (本会則の発効)

本会則は平成9年12月1日から発効する。
本会則は平成12年12月3日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条 (会費)

- (1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。
・聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室およ

び同関連教育病院現医局員の会員は年額5,000円

・その他の会員は年額10,000円

- (2) 70歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第3条 (役員の選出)

- (1) 役員の定数は、理事 15名(聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室現医局員より5名、前者以外の会員より10名)

監事2名

- (2) 理事および監事の選出は総会において投票をもって行う。

理事は前(1)項の定数の内訳のごとく各5名、10名の連記、無記名投票とし、上位5名、10名を当選とし、監事にあつては、2名連記、無記名投票とし、上位2名を当選とする。

尚、最下位当選者と獲得票数が同じになった場合は対象者で再投票を行い決定する。

ただし、立候補者が役員の定数内であれば、信任投票をもって選任できる

- (3) 選挙は選挙管理委員会が管理する。委員長および委員は会員の中から理事会が委託する。

ただし、役員および立候補者は選挙管理委員となることはできない。

- (4) 立候補者は聖マリアンナ医科大学卒業生の会員2名以上連名による推薦の届出により資格を得るものとする。

- (5) 選挙管理委員会は、任期満了の前年度総会に次役員の選挙が行えるように準備をする。

- (6) 選挙管理委員会は、立候補者が定数に満たない場合、あるいはなき場合、立候補の推薦を理事会に依頼する。

- (7) 補欠役員は、理事会で選任し、後日総会で承認を得るものとする。

- (8) 推薦理事、および名誉理事は前項(1)の定数には含めない。

- (9) 会長および副会長の選任は理事の互選による。

第4条 (慶弔)

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

<附則>

第5条 (本細則の発効)

本細則は平成9年12月1日から発効する。

本細則は平成11年11月28日から発効する。

本細則は平成12年12月3日から発効する。

平成15年度 同門会 会員名簿

氏名 勤務先	自宅住所 勤務先住所	自宅tel 勤務先tel	自宅fax 勤務先fax
赤尾 一郎 横浜総合病院 耳鼻咽喉科	〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央11-1-308 〒225-0025 横浜市青葉区鉄町2201	045-948-5606 045-902-0001	045-903-3098
赤城 光代 赤城医院	〒607-8475 京都市山科区北花山横田町1-2 〒607-8481 京都市山科区北花山中道町35-31	075-583-3111 075-581-5436	075-583-3111 075-502-2261
赤澤 吉弘 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒213-0013 川崎市高津区末長606 ELM・M3-302 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-888-9418 044-977-8111	044-976-8748
秋山 由香里 鈴木耳鼻咽喉科医院	〒261-0013 千葉市美浜区打瀬3-5-4-1404 〒276-0033 八千代市八千代台南2-2-14	043-211-0868 047-483-4434	
朝倉 美弥 目白耳鼻咽喉科	〒173-0004 板橋区板橋1-47-17-1705 〒171-0031 豊島区目白2-5-27	03-5248-0210 03-5954-4133	03-5954-3387
東 美紀 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒157-0067 世田谷区喜多見9-1-2-303 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	03-3430-0798 044-977-8111	044-976-8748
荒木 昭夫 荒木耳鼻咽喉科医院	〒152-0035 目黒区自由が丘3-2-2 〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼1-11-6-2F	03-3441-5187 044-854-5518	03-3441-5187
飯田 順 飯田耳鼻咽喉科医院	〒215-0006 川崎市麻生区金程4-20-10 〒228-0011 座間市相武台1-4507 第六広栄ビル302	044-969-5528 046-257-9001	044-969-5529 046-257-9218
五十嵐 淑晴 五十嵐耳鼻咽喉科医院	〒142-0043 品川区二葉3-3-10 同 上	03-3787-1206 同 上	03-3788-8720 同 上
石倉 幹雄	〒145-0062 大田区北千束1-9-17	03-3717-3497	03-3717-3497
犬飼 賢也 済生会川口総合病院 耳鼻咽喉科	〒332-0021 川口市西川口2-5-2-606 〒332-0021 川口市西川口5-11-5	048-259-5767 048-253-1550	048-253-8940
井上 馨子	4126 Chales Ave. Culver City, C.A. 90232 U.S.A	310-836-4822	310-836-2677
井原 佳美 積仁会島田総合病院 耳鼻咽喉科	〒288-0031 銚子市前宿町845-3 グランドヒルズ301 〒288-0053 銚子市東町5-3	0479-24-1172 0479-22-5401	0479-23-3613
芋川 英紀 芋川耳鼻咽喉科クリニック	〒251-0037 藤沢市鶴沼海岸1-2-18-403 〒248-0006 鎌倉市小町2-10-1壹番館ビル3F	0466-34-0938 0467-24-7273	0467-24-7273
巖 文雄 梶ヶ谷耳鼻咽喉科	〒158-0096 世田谷区玉川台1-11-15-205 〒213-0013 川崎市高津区末長146-1 A-103	03-5716-3633 044-877-4628	03-5716-3633 044-877-4628
岩澤 寛 耳鼻咽喉科岩澤医院	〒158-0093 世田谷区上野毛4-30-12 〒107-0052 港区赤坂3-1-16	03-3704-5178 03-3583-6155	03-3704-5178 03-3583-6155
岩武 博也 岩武耳鼻咽喉科医院	〒225-0005 横浜市青葉区荻子田1-2-5 C-403 〒247-0061 鎌倉市台5-2-27	045-901-3386 0467-46-2977	0467-46-2977
上杉 恵介 上杉耳鼻咽喉科医院	〒161-0033 新宿区下落合3-3-5-603 〒178-0064 練馬区南大泉4-48-7	03-3565-2575 03-3924-8187	03-3565-2575 03-3924-8187
内田 登 聖テレジア病院 耳鼻咽喉科	〒214-0014 川崎市多摩区登戸204-2-203 〒248-0033 鎌倉市腰越一丁目2-1	090-1425-5836 0467-32-4125	0467-31-4101
梅原 毅 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼1-18-16-505 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-862-8606 044-977-8111	044-976-8748
漆畑 保 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒154-0016 世田谷区弦巻4-34-3-201 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	03-3427-8362 044-977-8111	044-976-8748
榎並 厚人	〒262-0033 千葉市花見川区幕張本郷7-12-24	043-272-5777	043-272-5777
大川 勇 水元耳鼻咽喉科・外科クリニック	〒125-0035 葛飾区南水元1-25-1 〒125-0035 葛飾区南水元1-25-1	03-3609-6389 03-3608-1202	03-3609-6389 03-3608-1202
大草 方子 医療法人社団逸光会西新橋耳鼻科アレルギー科	〒113-0001 文京区白山1-33-8-811 〒105-0003 港区西新橋1-5-9 TSビル5F	03-5684-8605 03-5157-0331	03-5157-0331

大越 俊和 大越医院	〒251-0026 藤沢市鶴沼東4-9 〒226-0014 横浜市緑区台村町362	0466-26-6985 045-931-1602	0466-26-6985 045-931-1602
大城 修 大城耳鼻咽喉科医院	〒905-0021 名護市東江4-4-3 同 上	0980-53-0636 0980-53-1697	0980-53-1939 同 上
大高 詳一郎 耳鼻咽喉科菅原医院	〒014-0311 仙北郡角館町町上丁65 同 上	0187-54-2052 同 上	0187-54-3677 同 上
大竹 英夫 大竹耳鼻咽喉科	〒195-0055 町田市三輪緑山1-7-11 〒177-0051 練馬区関町北2-26-18	044-987-6705 03-3929-8733	03-3594-5286
大塚 崇志 稲田登戸病院 耳鼻咽喉科	〒214-0038 川崎市多摩区生田6-19-2 ルピナス511号 〒214-0032 川崎市多摩区枳形6-1-1	044-965-0214 044-911-2100	044-900-2945
大橋 徹 秦野赤十字病院 耳鼻咽喉科	〒305-0043 つくば市大角豆949-10 〒257-0012 秦野市西大竹尾尻地区43街区	0298-51-1741 0463-81-3721	0463-82-4416
大橋 直樹 大橋耳鼻科・眼科クリニック	〒930-0882 富山市五艘1634-1 メゾン五艘213 〒938-0037 黒部市新牧野176	0764-41-0644 0765-52-5870	0765-52-5734
岡田 智幸 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒167-0032 杉並区天沼3-6-34 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	03-3398-7645 044-977-8111	044-976-8748
荻野 貞雄 熊谷医院	〒230-0015 横浜市鶴見区寺谷2-12-13 〒210-0846 川崎市川崎区小田5-28-15	045-581-3413 044-322-5957	045-581-3413 044-322-5954
荻野 洋一 南眼科・形成外科 横浜市大医学部付属病院 形成外科	〒225-0011 横浜市青葉区あざみ野3-18-10 〒232-0044 横浜市南区榎町1-34-2 〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9	045-901-1461 045-715-3595 045-787-2800	045-901-1461 045-715-3595
岡本 充史 横浜総合病院 耳鼻咽喉科	〒215-0012 川崎市麻生区東百合丘3-12-3-305 〒225-0025 横浜市青葉区鉄町2201	044-952-2219 045-902-0001	045-903-3098
尾谷 良博 尾谷耳鼻咽喉科医院	〒404-0042 塩山市上於曾349-2 同 上	0553-32-3387 同 上	
越智 健太郎 聖マリアンナ医科大学東横病院 耳鼻咽喉科	〒206-0804 稲城市百村1624-1-1103 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-435	042-379-4063 044-722-2121	044-711-3316
越智 有希子(旧姓 松尾)	〒158-0083 世田谷区奥沢7-31-1 4779 Collins Ave.#3606 Miami Beach FL33140 U.S.A	03-3703-6478 305-534-4067	03-3703-6478
小野 泰三郎 けやき台耳鼻咽喉科	〒190-0001 立川市若葉町1-16-6 〒190-0001 立川市若葉町1-14-28	042-537-3506 042-536-0240	
小野 智宏 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒216-0001 川崎市宮前区野川930-1-201 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	090-8779-0344 044-977-8111	044-976-8748
小宅 大輔 聖マリアンナ医科大学東横病院 耳鼻咽喉科	〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾647-1-302 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-435	045-972-0323 044-722-2121	044-711-3316
春日井 滋 共立蒲原総合病院 耳鼻咽喉科	〒421-3306 庵原郡富士川町中之郷2500-1 (30G) 〒421-3306 庵原郡富士川町中之郷2500-1	0545-81-1641 0545-81-2211	0545-81-2208
勝見 直樹 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒216-0007 川崎市宮前区小台1-4-7-405 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-856-7867 044-977-8111	044-976-8748
加藤 功 高津駅前 みみ・はな・のびクリニック	〒213-0001 川崎市高津区溝口3-10-35 〒213-0001 川崎市高津区溝口4-1-17 3F	044-814-2317 044-833-8741	044-814-2318 044-833-8721
金子 卓爾 かねこ耳鼻咽喉科	〒238-0041 横須賀市本町3-33-3 〒238-0031 横須賀市衣笠栄町3-2-2エスケイビル	0468-21-1201 0468-52-4187	0468-21-0542 0468-52-4178
鎌数 清麿 カマカズ医院	〒916-0053 鯖江市日の出町5-4 同 上	0778-51-0207 0778-51-0131	0778-51-9595 同 上
苅田 みすず 木村耳鼻咽喉科医院	〒141-0021 品川区上大崎3-12-14-403 〒306-0022 古河市横山町1-10-33	03-5420-6303 0280-22-0614	03-5420-6303 0280-23-0553
木内 庸雄 稲田登戸病院 耳鼻咽喉科	〒214-0032 川崎市多摩区枳形5-26-1-204 〒214-0032 川崎市多摩区枳形6-1-1	044-932-6573 044-911-2100	044-900-2945
菊地 仁 関東労災病院 耳鼻咽喉科	〒225-0011 横浜市青葉区あざみ野2-16-14 〒211-8510 川崎市中原区木月住吉町2035	045-901-6435 044-411-3131	044-433-3150
菊地原 基敬 菊地原耳鼻咽喉科	〒215-0013 川崎市麻生区王禅寺東3-25-8 〒215-0005 川崎市麻生区千代ヶ丘8-1-3-103	044-952-5058 044-951-6821	044-952-5064
北原 哲 防衛医科大学校耳鼻咽喉科学講座	〒173-0005 板橋区仲宿47-17-409 〒359-8513 所沢市並木3-2	03-3579-1016 042-995-1686	042-996-5212

平成15年度 同門会 会員名簿

木下 裕継 共立蒲原総合病院 耳鼻咽喉科	〒421-3306	庵原郡富士川町中之郷2500-1-10- I	0545-81-3536	
	〒421-3306	庵原郡富士川町中之郷2500-1	0545-81-2211	0545-81-2208
木原 紀子 森田医院	〒340-0034	草加市氷川町1377-1	048-922-9834	048-922-9834
	〒340-0034	草加市住吉1-5-6	048-922-5031	048-922-5089
倉田 久美 倉田耳鼻咽喉科	〒239-0843	横須賀市ハイランド2-16-4	046-847-2859	
	〒239-0842	横須賀市長沢3-3-10	046-848-8741	046-848-1004
倉田 文雄 倉田耳鼻咽喉科	〒239-0833	横須賀市ハイランド2-16-4	046-847-2859	
	〒239-0842	横須賀市長沢3-3-10	046-848-8741	046-848-1004
黒田 寿史 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒225-0002	横浜市青葉区美しが丘3-66-6-302	045-903-4632	
	〒216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	044-976-8748
桑原 大輔 麻生病院 耳鼻咽喉科	〒145-0065	大田区東雪谷2-35-19	03-3720-0138	
	〒215-0021	川崎市麻生区上麻生6-25-1	044-987-2522	044-988-0878
釦持 睦 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 耳鼻咽喉科	〒227-0036	横浜市青葉区奈良町2864-3-2-401	045-961-0435	
	〒241-0811	横浜市旭区矢指町1197-1	045-366-1111	045-366-1190
肥塚 泉 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒215-0017	川崎市麻生区王禅寺西2-11-12	044-952-3907	
	〒216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	044-976-8748
小西 和朗 小西耳鼻科	〒031-0841	八戸市鮫町ハンノ木沢6-1	0178-33-1103	0178-33-1103
		同上	0178-33-1102	0178-33-1102
小林 健彦 積仁会島田総合病院 耳鼻咽喉科	〒288-0031	銚子市前宿町845-3-208	0479-25-4438	
	〒288-0053	銚子市東町5-3	0479-22-5401	0479-23-3613
小松崎 貴美 小松崎 靖 井澤耳鼻咽喉科医院	〒220-0032	横浜市西区老松町29-1 野毛山マンション3D	045-231-4463	
	〒230-0051	横浜市鶴見区鶴見中央1-26-3	045-502-1380	045-502-0551
五島 可喜 五島耳鼻咽喉科医院	〒253-0053	茅ヶ崎市東海岸北1-1-16	0467-82-4838	
		同上	0467-85-6124	0467-83-4647
齋藤 晋 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒214-0032	川崎市多摩区枳形1-15-15-102	044-932-7943	
	〒216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	044-976-8748
坂本 園子 かい小児科耳鼻咽喉科医院	〒211-0095	川崎市幸区南加瀬3-25-1	044-588-3335	044-588-3335
		同上	同上	同上
佐久間 惇 佐久間耳鼻咽喉科クリニック	〒225-0012	横浜市青葉区あざみ野南2-2-5-101	045-913-0985	045-913-0985
	〒216-0015	川崎市宮前区菅生2-1-6 日向園ビル1F	044-975-4387	044-975-4387
佐藤 成樹 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 耳鼻咽喉科	〒224-0001	横浜市都筑区中川2-10-1-501	045-913-1197	
	〒241-0811	横浜市旭区矢指町1197-1	045-366-1111	045-366-1190
菱澤 えり子 稲城市立病院 耳鼻咽喉科	〒216-0033	川崎市宮前区宮崎1-8-10-501	044-852-1807	
	〒206-0801	稲城市大丸1171	042-377-0931	042-379-1310
島田 園子 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒158-0095	世田谷区瀬田5-1-16-505	03-3707-7192	
	〒216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	044-976-8748
新谷 敏晴 聖マリアンナ医科大学東横病院 耳鼻咽喉科	〒227-0043	横浜市青葉区藤が丘2-23-20	045-974-4050	
	〒211-0063	川崎市中原区小杉町3-435	044-722-2121	044-711-3316
新橋 渉 財団法人癌研究会附属病院 頭頸科	〒156-0054	世田谷区桜丘5-17-20 プレファシオ201	03-3427-3213	
	〒170-8455	豊島区上池袋1-37-1	03-3918-0111	
菅野 澄雄 菅野耳鼻咽喉科	〒224-0001	横浜市都筑区中川5-30-23	045-910-4595	045-910-4595
	〒216-0002	川崎市宮前区東有馬3-5-29 三和ビル1F	044-852-8733	044-852-8733
杉浦 夏樹 藤田病院	〒146-0092	大田区下丸子4-26-5-1102	03-5482-4755	
	〒145-0071	大田区田園調布2-34-22	03-3721-2832	03-3721-2832
杉田 明美 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 耳鼻咽喉科	〒215-0021	川崎市麻生区上麻生3-13-1-712	044-966-6609	
	〒241-0811	横浜市旭区矢指町1197-1	045-366-1111	045-366-1190
杉山 裕 済生会川口総合病院 耳鼻咽喉科	〒180-0006	武蔵野市中町1-17-7 三興ビル701	0422-52-1585	
	〒332-0021	川口市西川口5-11-5	048-253-1550	048-253-8940
鈴木 一輝 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒214-0035	川崎市多摩区長沢1-16-10-203	044-976-5261	
	〒216-8511	川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111	044-976-8748
鈴木 毅 鈴木耳鼻咽喉科医院	〒215-0021	川崎市麻生区上麻生3-13-1-408	044-951-9559	
	〒215-0021	川崎市麻生区上麻生5-38-5	044-988-2590	044-988-2590

鈴木 正彦 かものみや耳鼻咽喉科	〒259-0132 中郡二宮町緑が丘3-2-12 〒250-0875 小田原市南鴨宮3-33-16	0463-70-1191 0465-48-4133	0463-70-1191 0465-48-4133
関 良武 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒215-0017 川崎市麻生区王禅寺西1-45-15-106 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-951-1898 044-977-8111	044-976-8748
瀬戸 皖一 鶴見大学歯学部第一口腔外科	〒230-0017 横浜市鶴見区東寺尾中台20-31 〒230-0063 横浜市鶴見区鶴見2-1-3	045-582-5617 045-581-1001	045-582-8733 045-582-0459
曾我 敏恵 白井耳鼻咽喉科医院	〒230-0047 横浜市鶴見区下野谷町4-179 同 上	045-511-3839 同 上	045-505-5768 同 上
高津 光晴 聖マリアンナ医科大学東横病院 耳鼻咽喉科	〒157-0066 世田谷区成城7-8-5 グリーンタウン成城Ⅱ120 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-435	03-3789-1120 044-722-2121	044-711-3316
高橋 姿 新潟大学大学院医歯学総合研究科感覚総合医学講座耳鼻咽喉科学分野	〒951-8102 新潟市二葉町1-823-30 〒951-8510 新潟市旭町通1番町757	025-223-9011 025-227-2303	025-223-9011 025-227-0787
高橋 佳孝 水戸済生会総合病院 耳鼻咽喉科	〒311-4143 水戸市大塚町1908-1-306 〒311-4145 水戸市双葉台3-3-10	029-255-3062 029-254-5151	029-254-9099
竹山 勇 竹山耳鼻咽喉科クリニック	〒194-0001 町田市つくし野2-10-32 〒215-0011 川崎市麻生区百合丘3-27-1	042-796-5413 044-952-3356	042-796-5413 044-952-3356
田澤 卓 たざわ耳鼻咽喉科クリニック	〒225-0003 横浜市青葉区新石川2-21-6 A-102 〒227-0041 横浜市青葉区上谷本町723-1	045-913-6984 045-972-9556	
田中 健二郎 東芝林間病院 耳鼻咽喉科	〒228-0813 相模原市松が枝町19-10-202 〒228-0802 相模原市上鶴間7-9-1	042-746-7103 042-742-3577	042-742-6121
田中 泰彦 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒215-0013 川崎市麻生区王禅寺西5-10-16-202 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-987-9821 044-977-8111	044-976-8748
田辺 忠夫 田辺耳鼻咽喉科医院	〒369-0112 北足立郡吹上町鎌塚4-3-1 同 上	0485-48-5100 0485-49-0733	0485-49-0733
田畑 久美子 医療法人石仁会 中島病院	〒963-7851 石川郡石川町新町51 〒963-7851 石川郡石川町新町46-1	0247-26-7317 0247-26-3415	0247-26-7317 0247-26-3416
堤 康一郎 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒164-0012 中野区本町2-42-15 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	03-3372-2110 044-977-8111	044-976-8748
廿野 延和 ツツノ薬局	〒143-0016 大田区大森北6-15-8 ツツノビル2F 〒143-0016 大田区大森北6-30-15 ツツノビル	03-3763-3595 03-3765-5151	03-3762-3825 03-3763-3595
戸田 行雄 戸田耳鼻咽喉科医院	〒433-8112 浜松市初生町820-1 同 上	053-437-8733 053-438-3311	053-438-3312
富澤 秀雄 水戸済生会総合病院 耳鼻咽喉科	〒311-4152 水戸市河和田1-1574-402 〒311-4145 水戸市双葉台3-3-10	029-253-3111 029-254-5151	029-254-9099
鳥越 達也 鳥越耳鼻咽喉科	〒241-0816 横浜市旭区笹野台1-1-43 -408号 〒241-0816 横浜市旭区笹野台1-1-38 KNC壹番館	045-362-9318 045-366-6487	045-366-6487
中島 博昭	〒241-0836 横浜市旭区万騎が原130-2	045-877-4019	
中村 学 稲城市立病院 耳鼻咽喉科	〒116-0003 荒川区南千住5-7-5 〒206-0801 稲城市大丸1171	03-3891-2880 042-377-0931	042-379-1310
西野 裕仁 京浜総合病院 耳鼻咽喉科	〒215-0012 川崎市麻生区東百合丘3-20-14-304 〒211-0044 川崎市中原区新城1-2-5	044-965-2447 044-777-3251	044-751-8964
信清 重典 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒224-0062 横浜市都筑区葛が谷12-13-201 〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1	045-943-9653 044-977-8111	044-976-8748
橋本 久子 橋本耳鼻咽喉科医院	〒235-0033 横浜市磯子区杉田1-17-1-1009 〒235-0033 横浜市磯子区杉田1-17-1 プララ杉田3F	045-774-3159 045-774-4133	045-774-3159 045-774-4133
服部 康介 秦野赤十字病院 耳鼻咽喉科	〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町1076-26 〒257-0011 秦野市西大竹尾尻地区43街区	045-971-4757 0463-81-3721	0463-82-4416
菱沼 文彦 菱沼耳鼻咽喉科医院	〒187-0003 小平市花小金井南町3-3-11 〒189-0013 東村山市栄町2-10-24	0424-62-6248 042-394-8350	0424-62-6248 042-394-8350
俵道 淳 聖ヨゼフ病院 耳鼻咽喉科	〒225-0005 横浜市青葉区荏子田1-12-1 ソレーユⅡ-202 〒238-0018 横須賀市緑が丘28	045-904-5869 0468-22-2134	0468-22-3134
平沼 一良 平沼歯科クリニック	〒225-0001 横浜市青葉区美しが丘西3-13-9 〒216-0022 川崎市宮前区平1-4-16	045-901-5001 044-866-6006	045-901-5001 044-866-5885

平成15年度 同門会 会員名簿

深沢 雅彦 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒181-0013 〒216-8511	三鷹市下連雀3-7-6 トパーズ103 川崎市宮前区菅生2-16-1	0422-45-2011 044-977-8111		044-976-8748
古野 隆之 古野医院	〒820-0065 同 上	飯塚市中952	0948-22-1950 同 上		0948-28-9123 同 上
星川 智英 星川耳鼻咽喉科	〒223-0056 〒222-0012	横浜市港北区新吉田町1149-2 横浜市港北区富士塚1-1-9-202	045-531-2285 045-435-1287		045-531-2285
細川 智 細川耳鼻咽喉科医院	〒359-1111 同 上	所沢市緑町2-22-8	042-939-4005 同 上		042-923-8523 同 上
松生 愛彦 松生耳鼻咽喉科医院	〒157-0066 同 上	世田谷区成城6-18-20	03-3484-1811 同 上		03-3484-2122 同 上
三井 雅夫	〒216-0013	川崎市宮前区潮見台8-28	044-975-0881		
南 定 みなみ耳鼻咽喉科医院	〒151-0072 同 上	渋谷区幡ヶ谷2-18-16	03-3378-3597 03-3376-2554		03-3378-3597 03-3376-2554
三保 仁 三保耳鼻咽喉科	〒222-0002 〒222-0031	横浜市港北区師岡町356 横浜市港北区太尾町520 三保クリニックビル1F	045-531-1500 045-545-8711		045-545-1487
宮坂 良介 宮坂医院	〒365-0014 同 上	北埼玉郡川里町屈巢3843	048-569-0100 同 上		048-569-2527 同 上
宮部 聡 宮部耳鼻咽喉科医院	〒224-0001 〒214-0038	横浜市都筑区中川1-17-1-602 川崎市多摩区生田7-2-7	045-913-5442 044-922-8193		
宮本 康裕 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 耳鼻咽喉科	〒211-0044 〒241-0811	川崎市中原区新城3-16-21 横浜市旭区矢指町1197-1	044-799-7749 045-366-1111		045-366-1190
守安 靖康 大岡山耳鼻科	〒145-0062 同 上	大田区北千束1-13-5	03-3723-0585 03-3723-5212		
諸見里 和子 みはら整形外科・耳鼻科	〒904-2153 同 上	沖縄市字美里1554	098-921-0088 同 上		098-921-0088 同 上
矢崎 裕久 山梨大学医学部 耳鼻咽喉科学	〒400-0017 〒409-3898	甲府市屋形2-2-23 中巨摩郡玉穂町下河東1110	055-254-7075 055-273-6769		055-254-7075 055-273-9670
山田 善一 中町耳鼻咽喉科クリニック	〒963-8004 同 上	郡山市中町14-17	024-939-3387 同 上		024-939-3390
山根 あゆ子	〒113-0023	文京区向丘2-17-1 ナイスアーバン302	03-3828-1322		
吉川 由繪 吉川耳鼻咽喉科医院	〒330-0061 〒332-0021	さいたま市浦和区常磐7-9-16 川口市西川口1-6-1 小野田ビル3F	048-833-0871 048-254-0871		048-252-4866
吉田 篤正 吉田医院	〒227-0062 〒226-0025	横浜市青葉区青葉台1-21-8 横浜市緑区十日市場町801-8	045-984-2006 045-983-6649		045-984-6773 045-983-6649
吉野 清美 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒225-0002 〒216-8511	横浜市青葉区美しが丘5-18-2-301 川崎市宮前区菅生2-16-1	045-901-6875 044-977-8111		044-976-8748
渡辺 昭司 聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学	〒214-0036 〒216-8511	川崎市多摩区南生田2-6-13 川崎市宮前区菅生2-16-1	044-954-2293 044-977-8111		044-976-8748
渡辺 嘉彦 介護老人保健施設 青葉の丘	〒194-0002 〒225-0004	町田市南つくし野4-8-26 横浜市青葉区元石川町6568	042-795-7274 045-904-2255		042-795-7274 045-904-1511
渡来 潤次 わたらい耳鼻咽喉科医院	〒181-0012 〒181-0012	三鷹市上連雀2-4-13 三鷹市上連雀2-3-5	0422-47-9077 0422-72-2733		0422-47-9093 0422-72-2787
和田 弘 相武台病院 耳鼻咽喉科	〒146-0094 〒228-0011	大田区東矢口3-15-4 座間市相武台1-4941-1	03-3735-4133 046-256-5111		046-256-5115

敬称略

物故会員

奥野 恒弥
河合 清隆
宮尾 益征

自宅・勤務先の住所変更・訂正がありましたらご連絡ください。

第6回理事会議事録

平成14年11月23日

1. 会員数、内訳（平成14年11月23日現在）

総会員数；124名

うち現医局員54名、名誉会員5名

名誉理事 荻野洋一、竹山 勇、加藤 功
理事 飯田 順、岩澤 寛、上杉恵介、
大竹英夫、小野泰三郎、菊地原
基敬、高橋 姿、戸田行雄、中
島博昭、渡来潤次、大橋 徹、
堤 康一朗、岩武博也、佐藤成
樹、越智健太郎

2. 会員異動

岩武 博也 平成14年3月 退職

(岩武耳鼻咽喉科医院)

田澤 卓 平成14年3月 退職

(たざわ耳鼻咽喉科クリニック)

小松崎 靖 平成14年3月 退職

(井澤耳鼻咽喉科医院)

監事 石倉幹雄、岡田智幸

事務局長 勝見直樹

(敬称略、50音順)

3. 新入会員

杉田 明美 平成12年3月

聖マリアンナ医科大学卒

6. 大橋 徹教授退任記念行事

1) 退任記念論文集 ANL(32編、250～300万円)

2) 退任記念パーティー 平成15年4月10日(木)

ホテル センチュリー・ハイアット

3) 最終講義 平成14年1月14日

内耳性難聴について

4. 会計報告（平成13年度）

	収入	支出
平成12年度繰越金	¥ 918,573	
平成13年度年会費	¥ 585,000	
広告掲載費	¥ 240,000	
会場費	¥ 560,000	
四門会誌第9号印刷費		¥ 400,000
四門会総会会場費		¥ 423,286
慶弔費		¥ 25,750
通信費		¥ 54,780
集合写真		¥ 177,265
計	¥1,385,000	¥1,081,081
平成14年度への繰越金	¥1,222,492	

7. 四門会賞

東 美紀先生

8. 平成15年度総会日時

平成15年11月23日(日)

9. その他

1) 退任記念行事への寄付 20名、21口(11月22日現在)あり

2) 同門会ゴルフコンペの名称を今後は四門会ゴルフコンペへ変更する

3) 四門会賞の賞金は10万円とする

4) 6月より大阪大から木内先生が研究生として異動、医局入局は次年度4月からとなる

5) 70歳以上の会員は年会費、懇親会費を免除する

5. 平成15年度役員人事

平成14年度 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科
学教室同門会役員

会長 肥塚 泉

副会長 菊地原基敬

推薦理事 肥塚 泉

編集後記

四門会誌は、発刊以来11号を数え、新しい10年を刻もうとしております。

今回、新しい10年を刻むにあたり「外から見たマリアンナ耳鼻科」と題しまして、「期待すること」、「素直に喜べないこと」、「改善すべきこと」などマリアンナ卒以外の開業の先生方4名にお願いし、幸いにも手厳しいお言葉はありませんでした....。

木山先生には、特別にご意見をいただくことができました。

「耳鼻科医療は、冬の時代で、しかも春が来ない」と日耳鼻理事長の会あるごとのお話です。そんなこともないのでは？というのが私の意見です。

学生たちには、「Amenity life（快適生活）を演出する診療科。それが、耳鼻科である」と教えています。アレルギー性鼻炎で、鼻が詰まれば通してあげる。突発性難聴で、聞こえなければ聞こえるように治療する。人工内耳など聾患者に対する福音の治療も耳鼻科は持っていると講義します。どの科とは申しませんが「慢性疾患を扱う診療科で、やりがいを見出せるか」と学生たちに問いただしたりもしています。

皆の努力で、後進たちが興味を持つ、魅力ある耳鼻科を我がマリアンナ耳鼻科から発信しようではありませんか！

（文責：岡田 智幸）

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会

「四門会」第11号

平成15年11月発行

発行 聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会
電話 044 (977) 8111 (代)
制作 株式会社 教育広報社



いま、実現。

世界100カ国以上の処方実績を有する
アレルギー性疾患治療剤、日本上陸。

クラリチンの特徴

- ① 1日1回投与のアレルギー治療薬*として、世界100カ国以上で発売されている。
- ② 蕁麻疹のそう痒に対し89.1%、発斑に対し87.5%の高い改善率を示した。また、アトピー性皮膚炎を含む湿疹・皮膚炎群、皮膚そう痒症の症状を改善した。
- ③ アレルギー性鼻炎（通年性）に対する第Ⅲ相臨床試験において、国内では初めて投与3日後に評価し、プラセボ群と比較して有意に鼻症状を改善した。また、アレルギー性鼻炎（季節性）の症状を投与1日目でプラセボ群と比較して有意に改善した。（参考：海外データ）
- ④ ヒスタミン拮抗作用（*in vitro*）、ヒスタミン遊離抑制作用（参考：海外データ）、ロイコトリエンC4遊離抑制作用（*in vitro*）、好酸球浸潤抑制作用（参考：海外データ）等を有する。
- ⑤ 承認時までの臨床試験で、副作用は1,653例中、173例（10.47%）に認められた。主なものは、眠気105件（6.35%）、倦怠感23件（1.39%）等であった。また、臨床検査値の異常変動は1,482例中、72例（4.86%）に認められた。主なものは、ALT（GPT）上昇13件（0.88%）、AST（GOT）上昇10件（0.67%）であった。重大な副作用：ショックを起こすことがある。また、てんかんの既往のある患者で本剤投与後に発作があらわれたとの報告がある。
*クラリチンの効能・効果は「アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症）に伴うそう痒」です。

指定医薬品 要指示医薬品（注意—医師等の処方せん・指示により使用すること）
持続性選択H₁受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤 薬価基準収載

クラリチン[®]錠 10mg
ロラタジン Claritin[®] Tablets 10mg

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

- 効能・効果／アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症）に伴うそう痒
- 用法・用量／通常、成人にはロラタジンとして1回10mgを1日1回、食後に経口投与する。なお、年齢・症状により適宜増減する。
- 使用上の注意
 1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）
 - (1) 肝障害のある患者【本剤の血漿中濃度が上昇するおそれがある。【薬物動態】の項参照】
 - (2) 腎障害のある患者【本剤の血漿中濃度が上昇するおそれがある。【薬物動態】の項参照】
 - (3) 高齢者【高齢者への投与】及び【薬物動態】の項参照】
 2. 重要な基本的注意
本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考慮して、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。
 3. 相互作用
併用注意（併用に注意すること）：エリスロマイシン、シメチジン
 4. 副作用
承認時までの臨床試験で、副作用は1,653例中、173例（10.47%）に認められた。主なものは、眠気105件（6.35%）、倦怠感23件（1.39%）、腹痛15件（0.91%）、口渇15件（0.91%）、嘔気・嘔吐9件（0.54%）であった。また、臨床検査値の異常変動は1,482例中、72例（4.86%）に認められた。主なものは、ALT（GPT）上昇13件（0.88%）、AST（GOT）上昇10件（0.67%）であった。
 - (1) 重大な副作用
 - 1) ショック（頻度不明）※：ショックを起こすことがあるので、チアノーゼ、呼吸困難、血圧低下等の症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
 - 2) てんかん（頻度不明）※：てんかんの既往のある患者で本剤投与後に発作があらわれたとの報告があるので使用に際しては十分な問診を行うこと。注）外国での市販後等の報告であり頻度不明
- その他の使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照下さい。
- 【使用上の注意】の改訂に十分ご留意下さい。

発売元



シオノギ製薬

【資料請求先】塩野義製薬株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町3-1-8

製造元



シェリング・プラウ株式会社

〒541-0046 大阪市中央区平野町2-3-7

2003.5月作成 B5 ©：登録商標

ロイコトリエン受容体拮抗剤 — 気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤 —

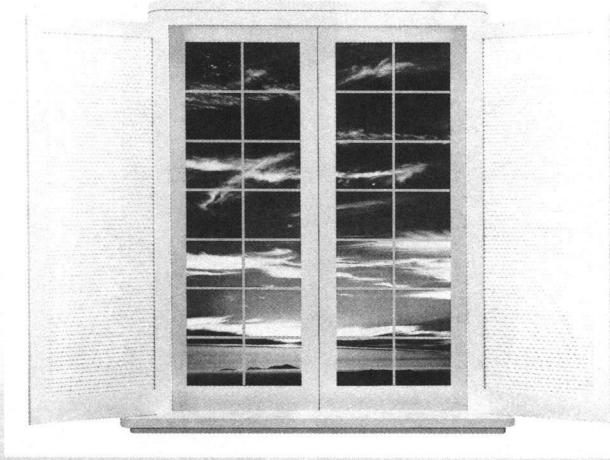
薬価基準収載

オノン[®]カプセル

指定医薬品

برانلカスト水和物カプセル

ONON



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、
詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

030901

